

第2章 現況分析

2-1 市の概要

(1) 半田市の位置づけ

本市は、名古屋市の南、知多半島のほぼ中心に位置しており、名鉄河和線とJR武豊線の鉄道2路線により名古屋市と結ばれています。また、知多半島の各都市や名古屋市と連絡する知多半島道路や南知多道路、中部国際空港へ連絡する知多横断道路があり、半田中央ジャンクションにより自動車専用道路が交差しています。主要な道路としては国道247号、国道366号の2路線、県道は名古屋半田線、半田常滑線、碧南半田常滑線（衣浦トンネル）、西尾知多線等13路線があります。また、古くから衣ヶ浦を背景とした海運業や醸造業等で栄えた臨海部には衣浦港が整備されており、陸・海・空の広域的な物流の利便性が高い都市となっています。

その他に半田税務署・名古屋地方検察庁半田支部・名古屋地方裁判所半田支部・名古屋法務局半田支局・半田警察署・愛知県知多総合庁舎・愛知県半田保健所等の国・県の施設や第3次救急医療機関である知多半島総合医療センターが立地しており、知多地域の中核的な都市として機能しています。

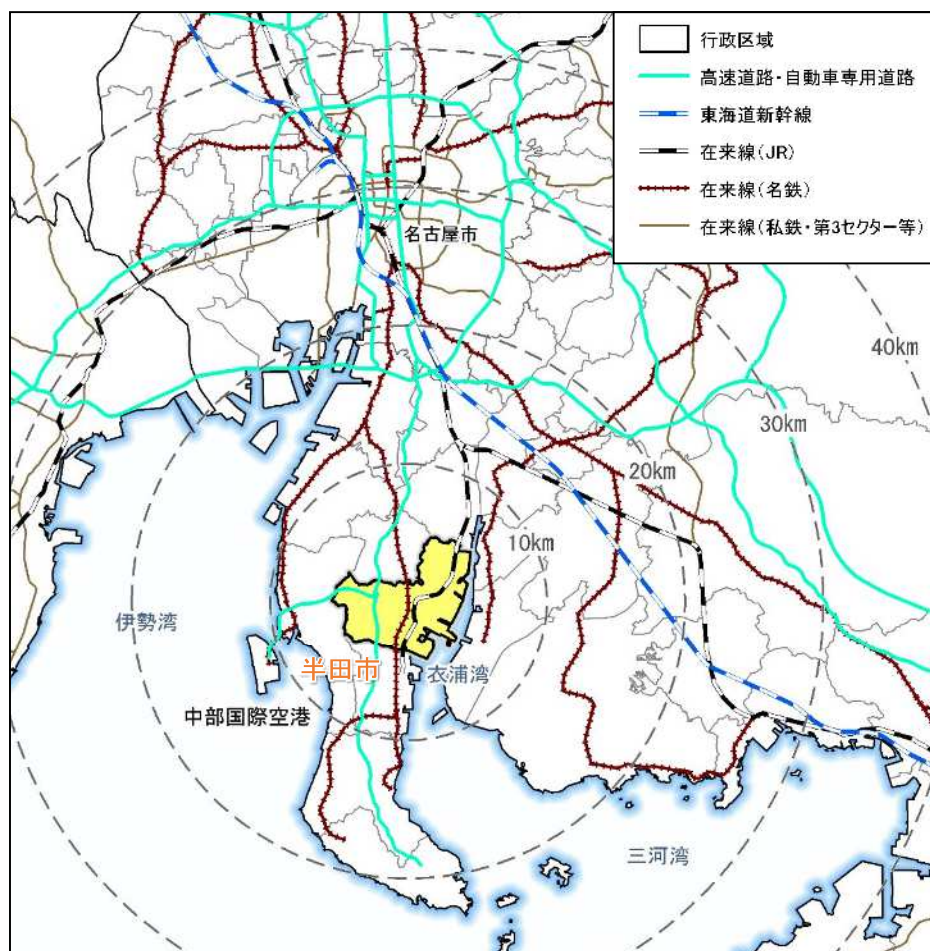


図1 位置図

(2) 地形条件

本市は知多半島の中央にある丘陵部から、埋立てによって整備された衣浦港にかけて、西高東低の地形となっています。市域を縦断する名鉄河和線が、知多半島中央の丘陵地に沿って整備されており、本市の拠点駅となる知多半田駅周辺まで丘陵地がせり出しています。また、JR武豊線の亀崎駅周辺の一部に丘陵地がありますが、その他の駅周辺については概ね平坦であり、各地域で異なる地形条件を有しています。

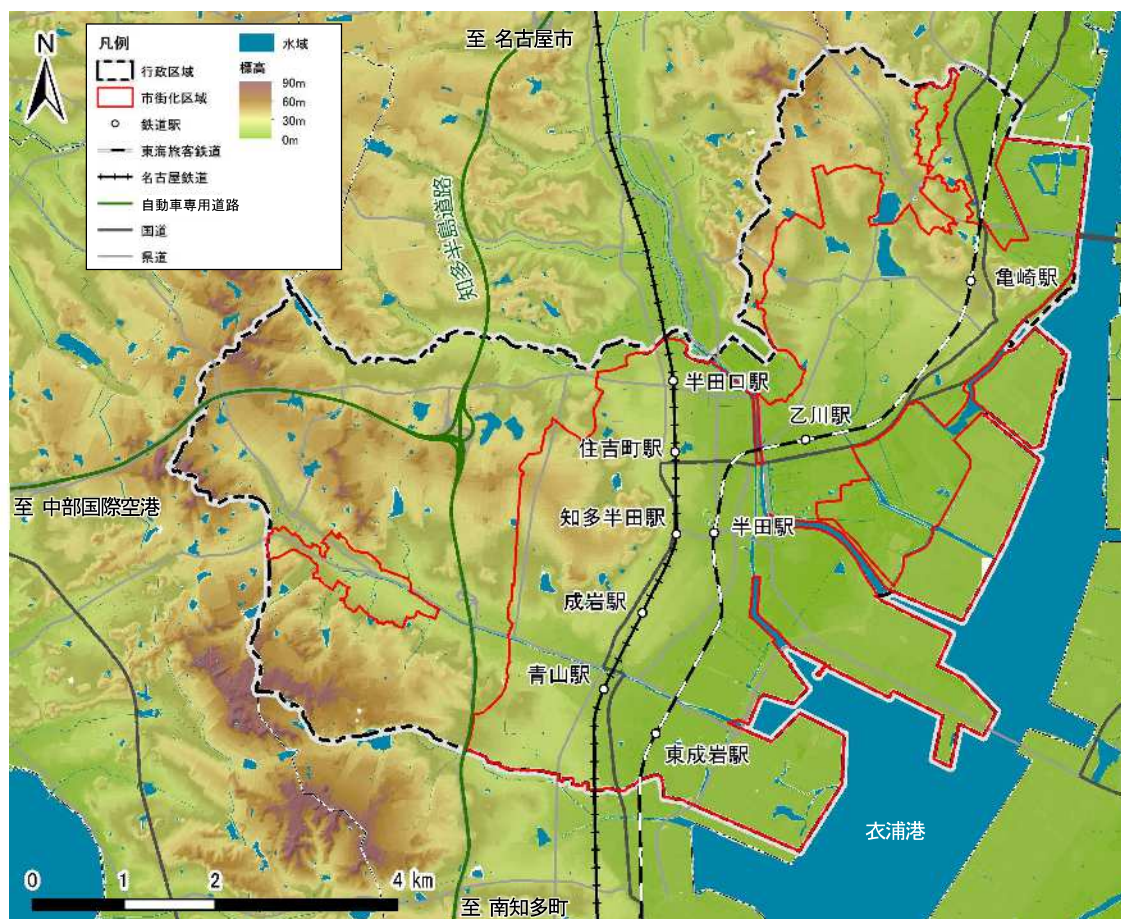


図2 標高図

資料：国土数値情報

2-2 人口・世帯

(1) 人口・世帯の推移

① 人口の推移

国勢調査による本市の人口の推移を長期的に見ると、図3に示すとおり、平成22年（2010年）頃がピークとなっています。国立社会保障・人口問題研究所による推計では、令和32年（2050年）には、令和2年（2020年）の117,884人から16,300人減少し、101,584人となることが予測されています。また、図4で示すとおり、平成27年（2015年）以降からこれまでの住民基本台帳の人口の推移を踏まえて本市が独自で実施した推計では、令和32年（2050年）の人口は100,300人と、いずれの場合も人口減少が進行することを予測しています。

年齢3区分別の人口を見ると、年少人口は、平成2年（1990年）から平成17年（2005年）までは概ね19,000人で推移していましたが、それ以降減少し令和2年（2020年）では15,269人となっており、今後も減少することが予測されています。生産年齢人口は、平成22年（2010年）までは増加していますが、その後減少に転じ、今後も減少することが予測されています。一方で、老年人口は増加しており、令和2年（2020年）で24.5%の高齢化率は、令和32年（2050年）には35.1%まで増加し、人口の3分の1以上が高齢者となることが予測されています。

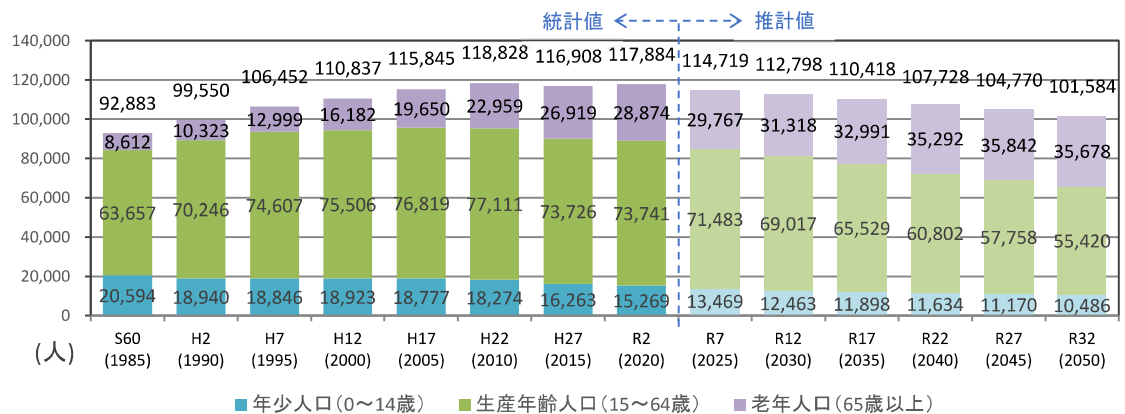


図3 人口の推移

資料：【令和2年以前】国勢調査
【令和7年以降】国立社会保障・人口問題研究所

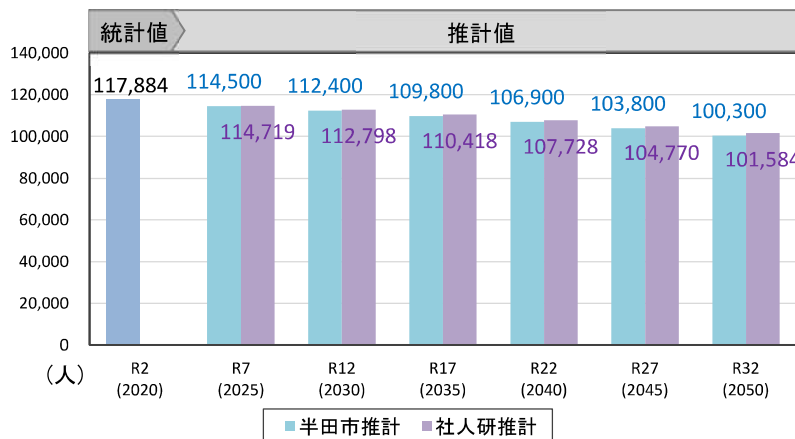


図4 社人研推計値と半田市推計値(令和2年（2020年）以降の人口推移を踏まえた推計)

第2章 現況分析

② 世帯数の推移

世帯数は増加している一方、1世帯当たりの人員が減少しています。また、高齢夫婦世帯・高齢単身世帯は共に増加していますが、特に高齢者単身世帯は、令和2年（2020年）では平成17年（2005年）の2倍弱に増加しています。

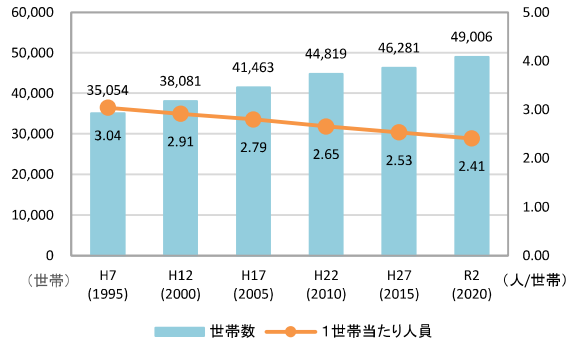


図5 世帯数の推移

資料：国勢調査

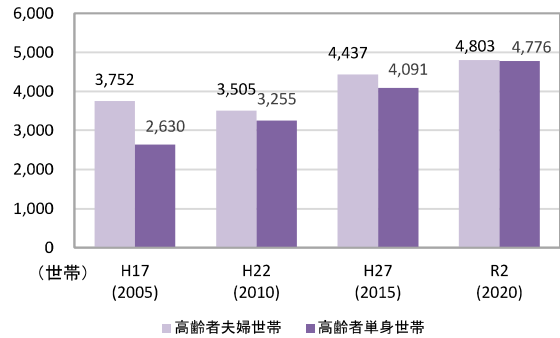


図6 高齢夫婦世帯・高齢単身世帯の推移

資料：国勢調査

③ 人口の増減

国勢調査が5年ごとの調査であり、調査の最新年次が令和2年（2020年）であることから、ここでは、住民基本台帳からの実績値により令和2年（2020年）以降の推移について人口の増減を把握します。本市の10年間の社会増減は、平成31年（2019年）まで転入超過となっていますが、令和2年（2020年）以降は転出超過となっています。自然増減は、平成27年（2015年）以降、減少傾向です。

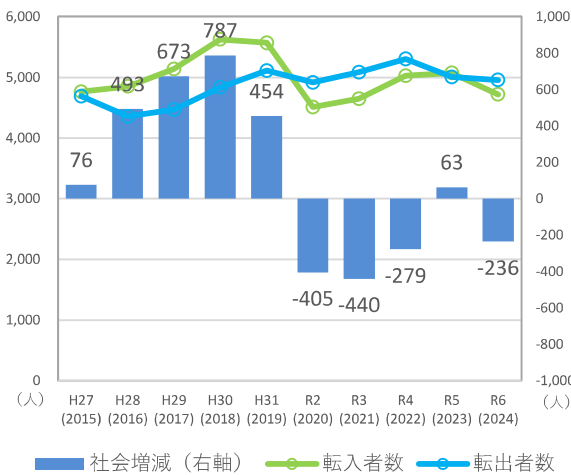


図7 社会増減の推移

資料：住民基本台帳

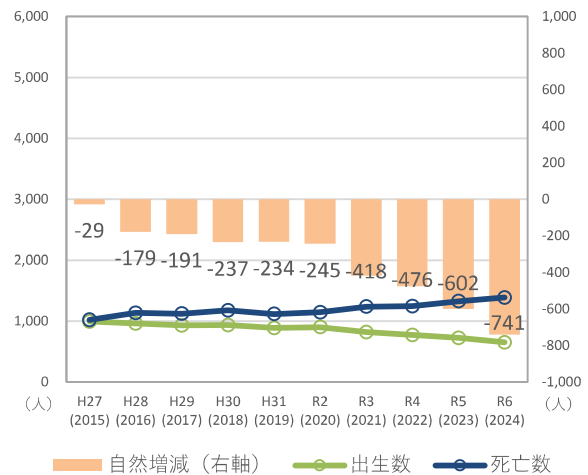


図8 自然増減の推移

資料：住民基本台帳

※社会増減：住民が市外に引っ越していったり、市外から引っ越してきたりすることによる人口の増減を言う。市外へ出て行く人が多い状況を「転出超過」、市内へ入ってくる人が多い状況を「転入超過」と言う。
 ※自然増減：出生と死亡による人口の増減を言う。出生が死亡を上回る状況を「自然増」と言う。

④ 年齢別の社会年齢別の社会増減

転入者・転出者とも20歳代、30歳代が多く、また、0歳から4歳の転入者・転出者も多くなっており、就職や出産後の引っ越しによる移動が考えられます。

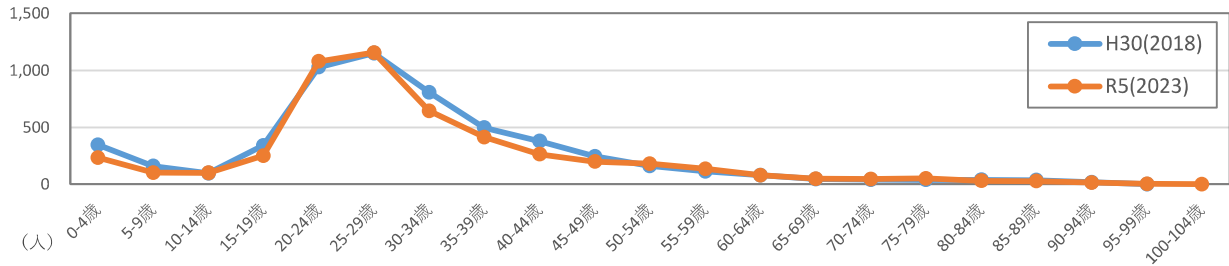


図9 年齢別転入者数の推移

資料：住民基本台帳

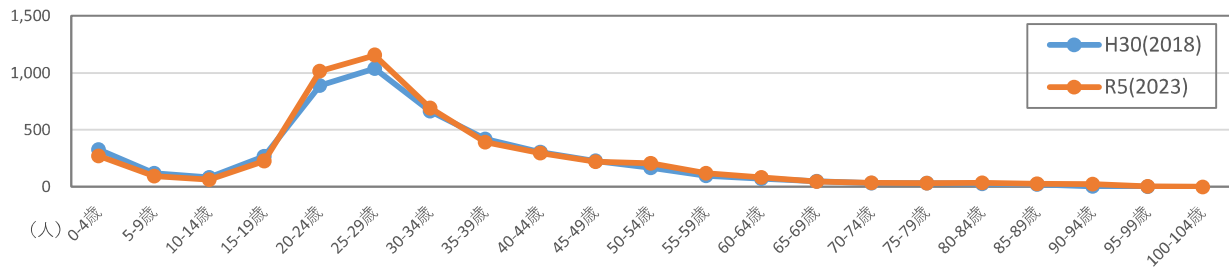


図10 年齢別転出者数の推移

資料：住民基本台帳

⑤ 社会増減の世帯特性

令和2年（2020年）の転入世帯と転出世帯の1世帯当たり人員を比較すると、ほぼ同じ数値となっています。

また、平成27年（2015年）の結果と比較すると、転出世帯の1世帯当たり人員が2.22人/世帯と複数人世帯の転出が顕著でしたが、令和2年（2020年）は1.25人/世帯と大きく減少しており、単身世帯の転出が増加しています。

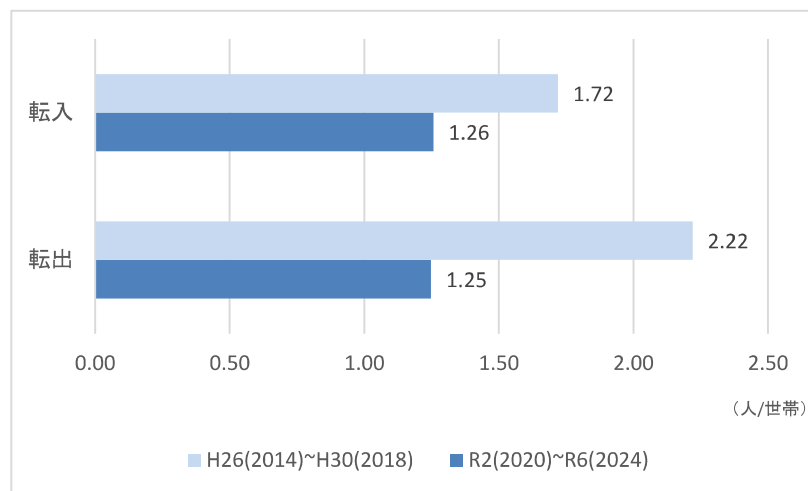


図11 転入世帯と転出世帯の1世帯当たり人員

資料：住民基本台帳

(平成26年(2014年)から平成30年(2018年)の5年間平均値および令和2年(2020年)から令和6年(2024年)の5年間平均値の比較)

(2) 人口分布

① 土地区画整理事業の実施状況

本市では、これまで16地区(793ha)で土地区画整理事業が完了し、2地区が現在施行中です。また、事業が完了した区域の半数が、完了後30年以上経過しています。

表1 土地区画整理事業一覧

区分	地区名	事業主体	施行面積 (ha)	施行年度	完了後経過年
施行済	① 半田	県	211.1	S17~S25	75年
	② 清城	組合	75.2	S42~S50	50年
	③ 白山桐ヶ丘	組合	24.5	S43~S51	49年
	④ 花園	組合	75.6	S44~S52	48年
	⑤ 住吉駅東	組合	1.6	S47~S53	47年
	⑥ 柊星崎	市	14.7	S50~S61	39年
	⑦ 乙川稗田	組合	6.7	S53~S61	39年
	⑧ 新居	組合	12.4	S55~S63	37年
	⑨ 乙川北部	組合	59.5	S54~H6	31年
	⑩ 東部	組合	84.4	S53~H9	28年
	⑪ 青山	組合	84.5	S55~H11	26年
	⑫ 西部	組合	119.2	S55~H12	25年
	⑬ 乙川畑田	組合	0.8	H13~H19	18年
	⑭ 平地北部	組合	4.1	H9~H20	17年
	⑮ 板山	組合	1.0	H21~H23	14年
	施行中	⑰ 半田乙川中部	市	47.5	H6~R14
⑱ JR半田駅前		市	6.2	H29~R16	—

※本市の市街化区域内での土地区画整理事業施行割合は施行済が約28%であり、施行中を含めると約30%になります。

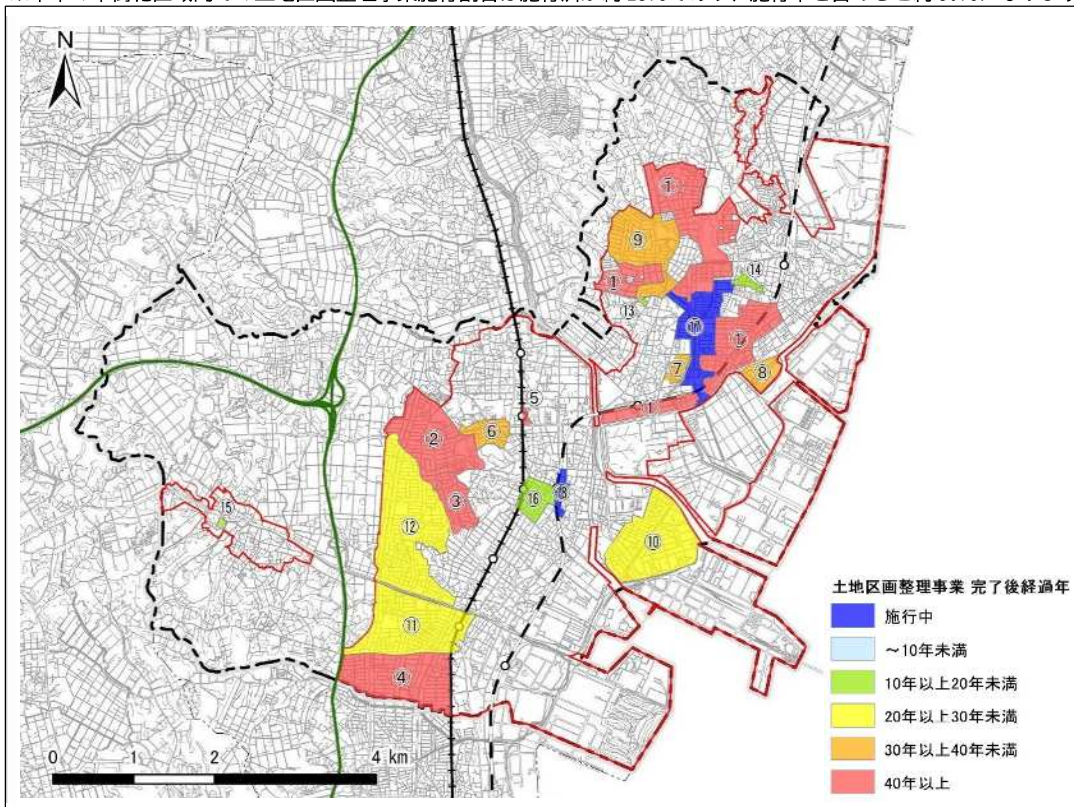


図12 土地区画整理事業 位置図

② 市街化区域内外の人口

本市では、市域の面積の58%を占める市街化区域に、91%の人が居住しています。

人口の推移を見ると、市街化区域と市街化調整区域では、各区域の人口のピークとなる年次は異なるものの、それぞれ増加から減少へ転じています。

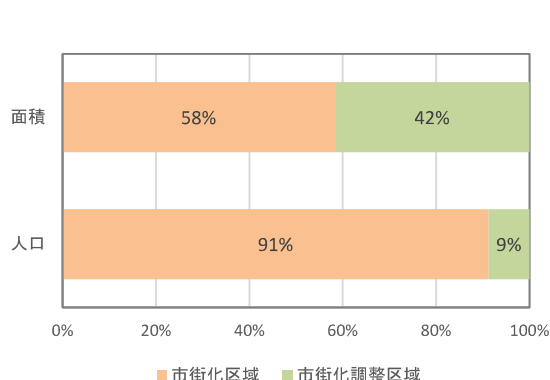


図13 市街化区域内外の人口割合 (令和3年(2021年))

資料：都市計画基礎調査(令和3年)

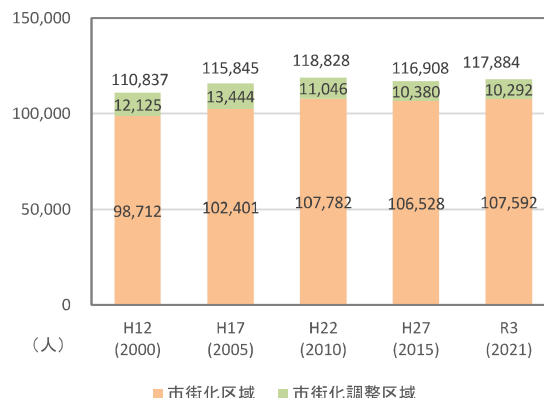


図14 市街化区域内外での人口の推移

資料：都市計画基礎調査(令和3年)

③ 用途地域別の人口

工業専用地域を除く市街化区域の人口密度は53人/haであり、既成市街地の基準値である40人/ha以上となっています。

また、用途地域別にみると、第1種低層住居専用地域や第1種中高層住居専用地域、商業地域の人口密度が、都市計画運用指針に記載された住宅用地の基本値である60人/ha以上となっています。

表2 用途地域別の人口密度

用途地域等	面積(ha)	人口(人)	人口密度(人/ha)	世帯(世帯数)
	【A】	【B】	【B/A】	
第1種低層住居専用地域	276	17,909	65	7,260
第1種中高層住居専用地域	346	23,652	68	9,716
第2種中高層住居専用地域	112	6,037	54	2,599
第1種住居地域	566	32,009	57	13,241
第2種住居地域	30	1,063	35	448
準住居地域	24	738	31	327
近隣商業地域	85	3,767	44	1,721
商業地域	45	3,157	70	1,363
準工業地域	366	16,606	45	7,508
工業地域	178	2,642	15	1,186
工業専用地域	739	12	0	4
市街化区域 計	2,768	107,592	39	45,373
市街化区域(工専除く)	2,029	107,580	53	45,369
市街化調整区域	1,974	10,292	5	3,633
合計	4,742	117,884	25	49,006

資料：都市計画基礎調査(令和3年)

④ 人口集中地区（D I D）の状況

本市では、令和2年（2020年）の時点で、板山地区、有脇地区及び臨海部を除く市街化区域のほとんどが人口集中地区となっています。

面積の推移を見ると平成12年（2000年）までは増加傾向であり、それ以降は概ね横ばいで推移していましたが、令和2年（2020年）に再び増加に転じています。D I D人口密度は、平成2年（1995年）から22年（2010年）まで増加しており、平成27年（2015年）以降は減少しています。

なお、令和2年（2020年）のD I D人口密度は42.4人/haであり、愛知県内で40番目（48市町中）です。

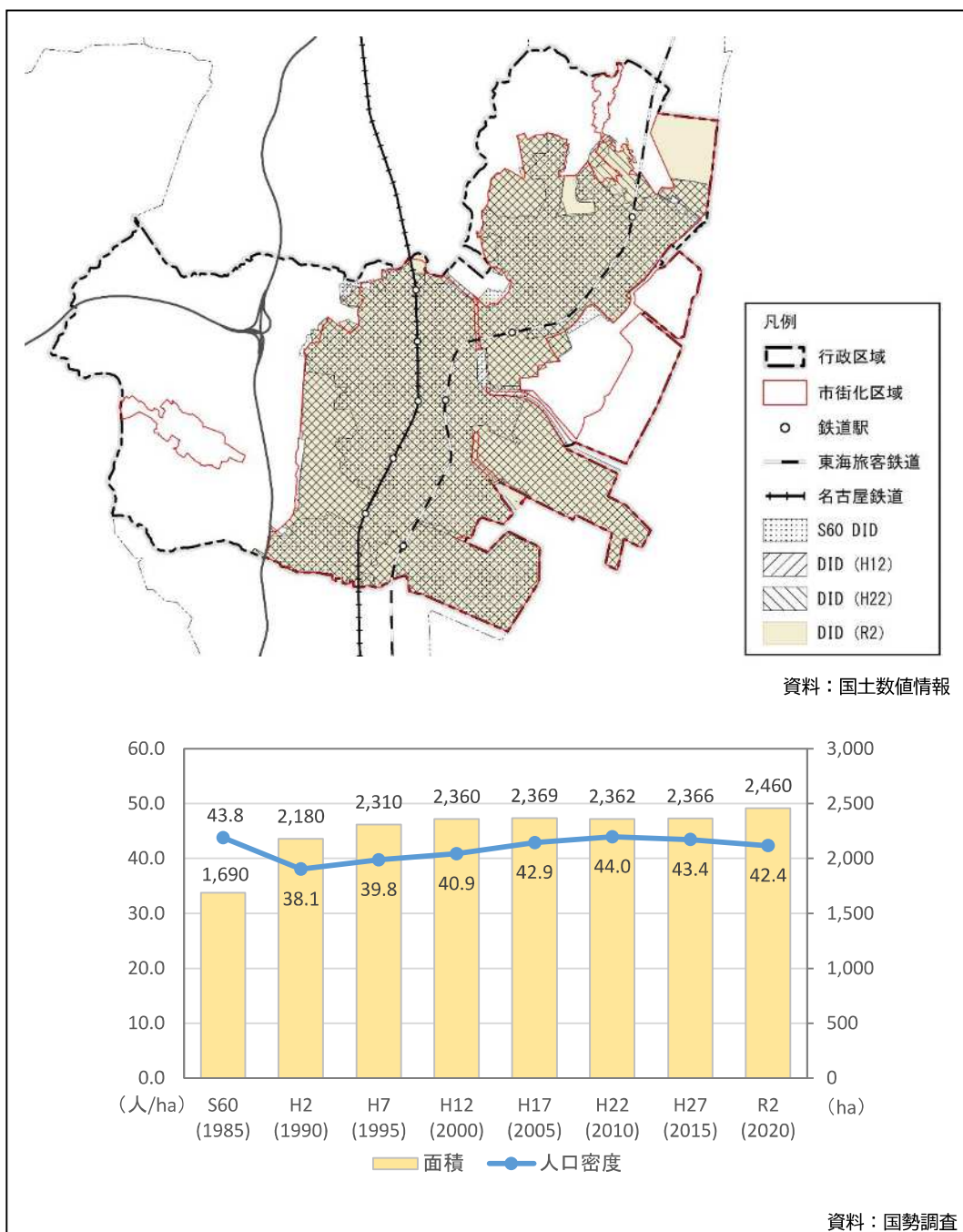


図15 人口集中地区（D I D）の推移

⑤ 総人口の分布 (500mメッシュ)

令和2年(2020年)の総人口の分布を見ると、各鉄道駅周辺や土地区画整理事業区域等に集積しています。

平成22年(2010年)から令和2年(2020年)までの総人口の増減数を見ると、半田口駅東側周辺や土地区画整理事業が行われた半田乙川中部土地区画整理事業区域の周辺でまとまった人口増加が見られます。一方で、半田駅東側や乙川駅周辺、亀崎駅東側周辺等、鉄道駅周辺であっても人口が減少している地域があります。

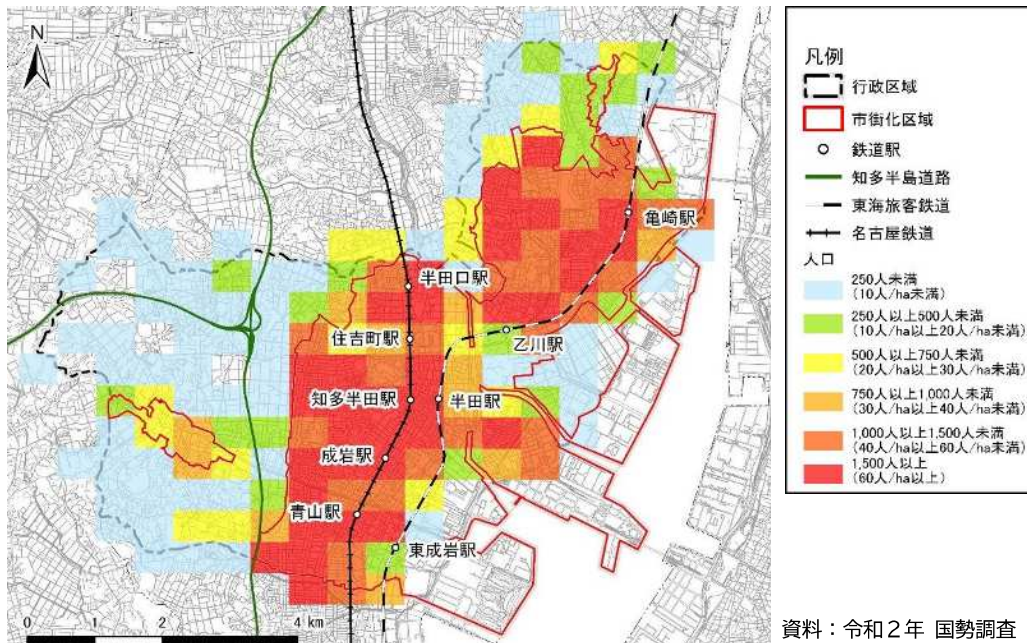


図16 総人口の分布 (令和2年(2020年): 500mメッシュ)

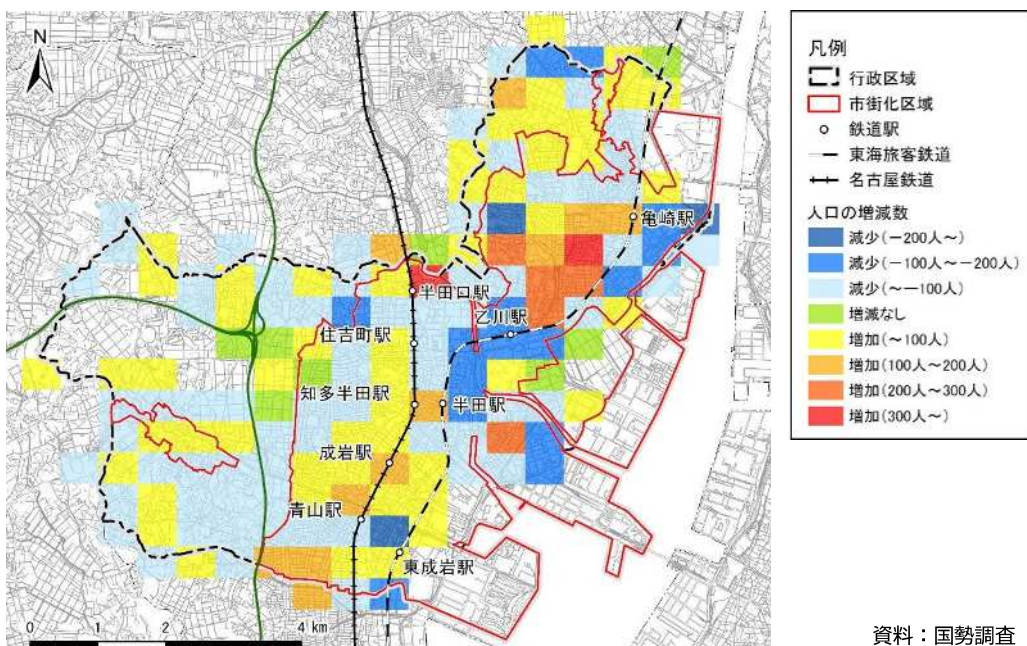
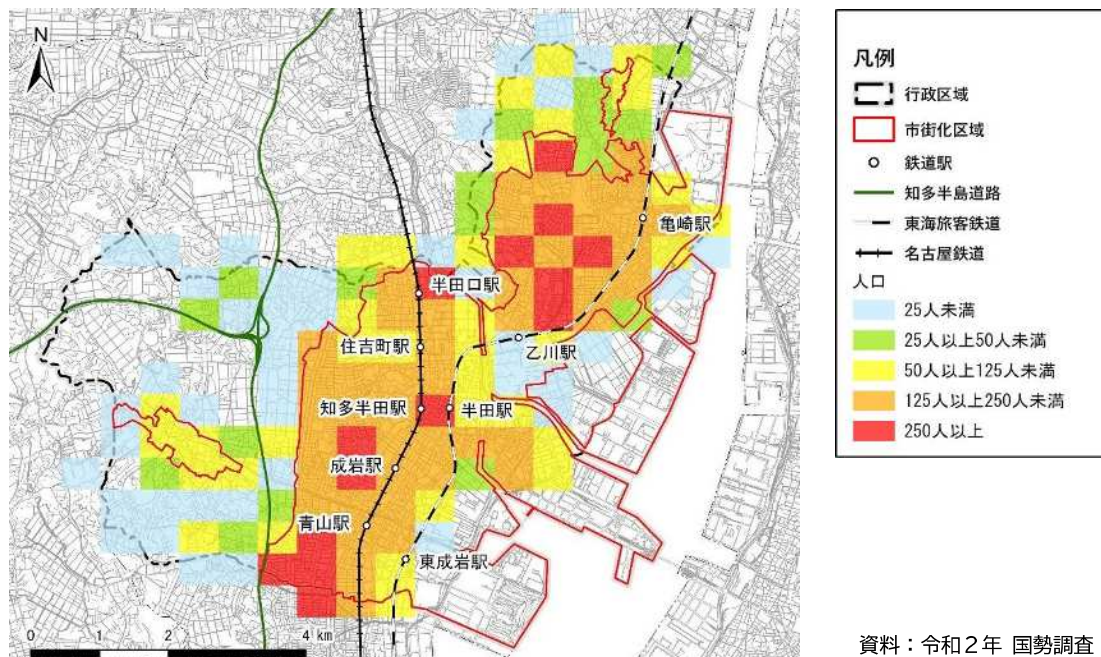


図17 総人口の増減数 (令和2年(2020年)と平成22年(2010年)の差)

⑥ 年少人口（14歳以下）の分布（500mメッシュ）

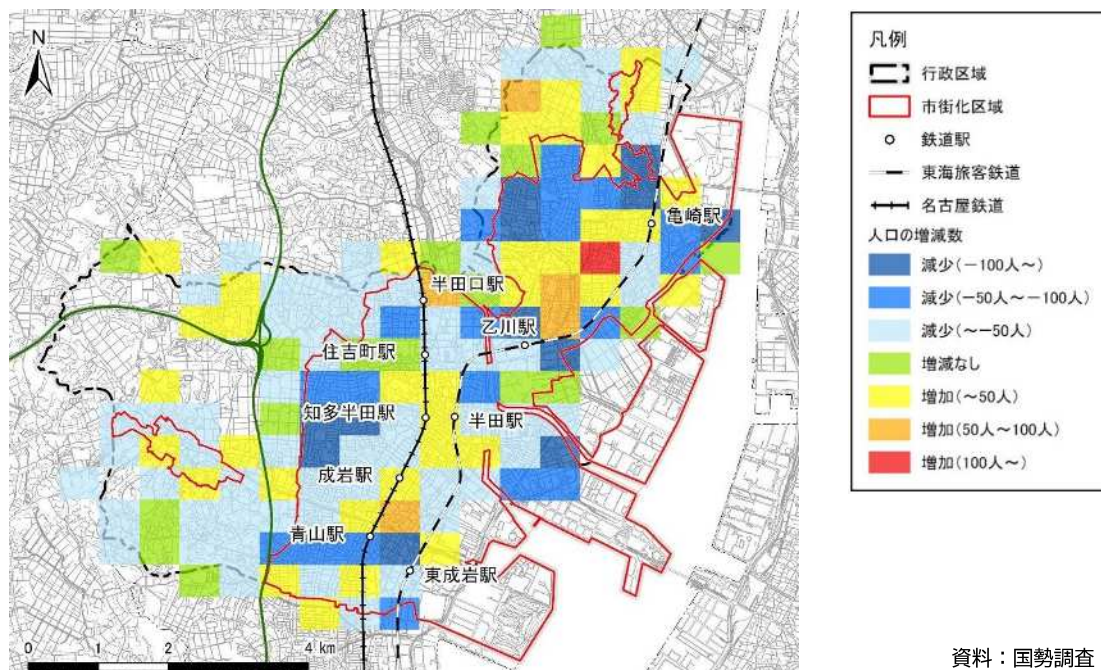
令和2年（2020年）の年少人口の分布を見ると、亀崎駅周辺や半田、乙川北部及び名鉄河和線西側の土地区画整理事業区域に集積しています。

平成22年（2010年）から令和2年（2020年）までの年少人口の増減数を見ると、半田乙川中部土地区画整理事業区域の周辺でまとまった人口増加が見られますが、全体的には減少しています。



資料：令和2年 国勢調査

図18 年少人口の分布（令和2年（2020年）：500mメッシュ）



資料：国勢調査

図19 年少人口の増減数（令和2年（2020年）と平成22年（2010年）の差）

⑦ 生産年齢人口（15歳～64歳）の分布（500mメッシュ）

令和2年（2020年）の生産年齢人口の分布を見ると、各鉄道駅周辺や土地区画整理事業区域等に集積しています。

平成22年（2010年）から令和2年（2020年）までの生産年齢人口の増減数を見ると、土地区画整理事業が行われた半田乙川中部土地区画整理事業区域の周辺でまとまった人口増加が見られますが、全体的には減少しています。

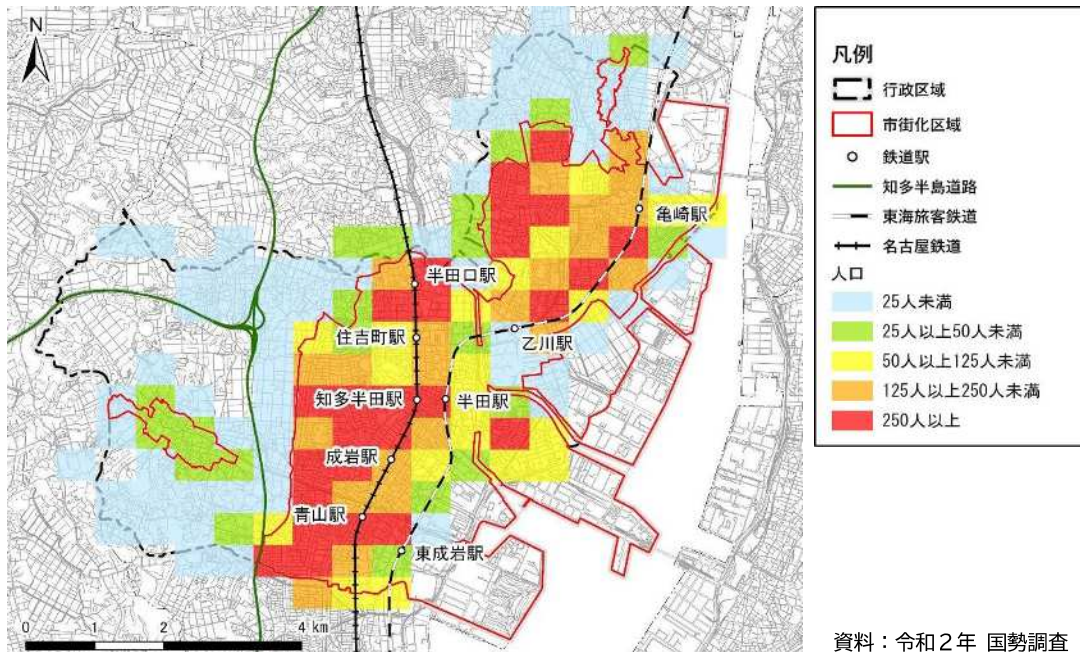


図20 生産年齢人口の分布（令和2年（2020年）：500mメッシュ）

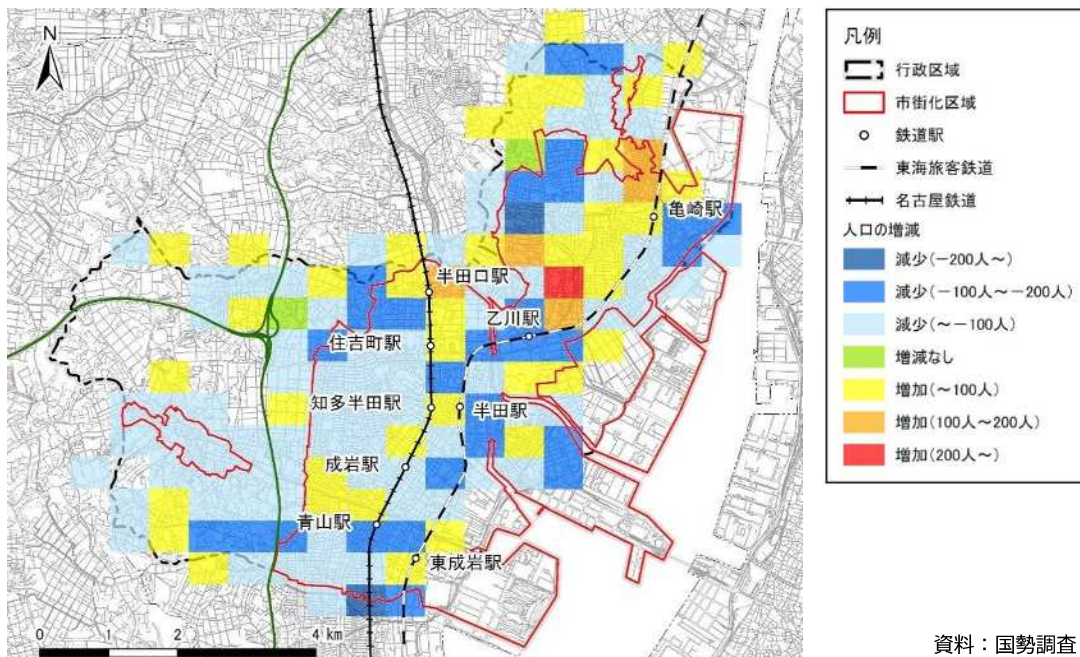


図21 生産年齢人口の増減数（令和2年（2020年）と平成22年（2010年）の差）

⑧ 老年人口（65歳以上）の分布（500mメッシュ）

令和2年（2020年）の老年人口（65歳以上）の分布を見ると、鉄道駅周辺の市街地や半田土地区画整理事業区域等、比較的初期に住宅開発が実施された地域で多い状況です。

平成22年（2010年）から令和2年（2020年）までの老年人口の増減数を見ると、概ね全域で増加していますが、特に駅徒歩圏外にある半田乙川北部で200人以上のまとまった人口増加が見られます。

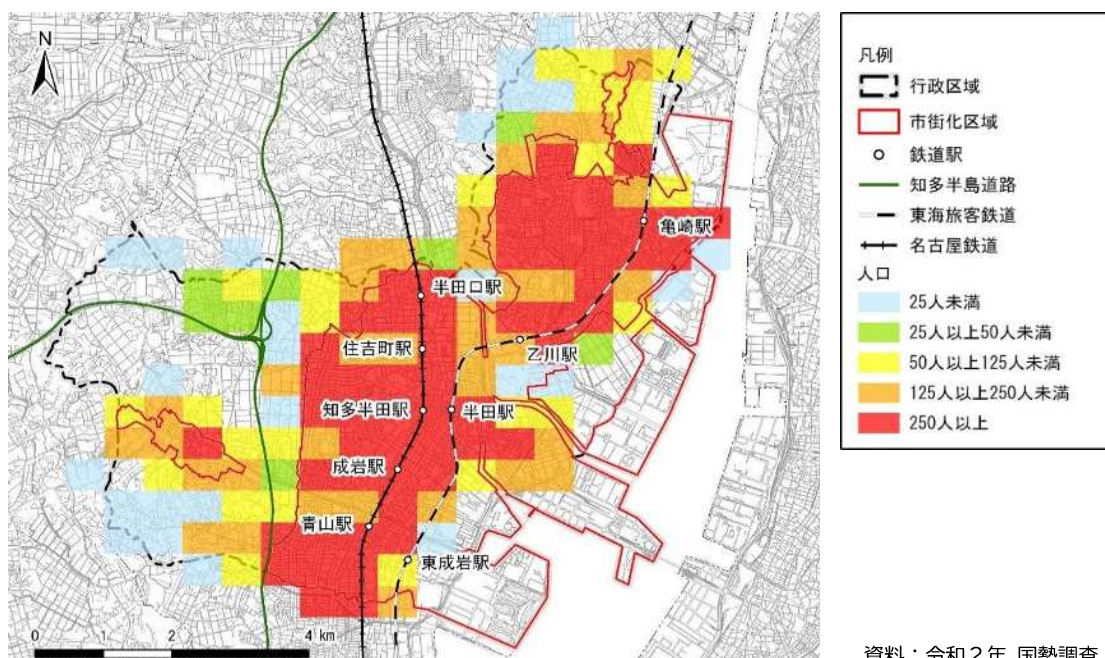


図22 老年人口（65歳以上）の分布（令和2年（2020年）：500mメッシュ）

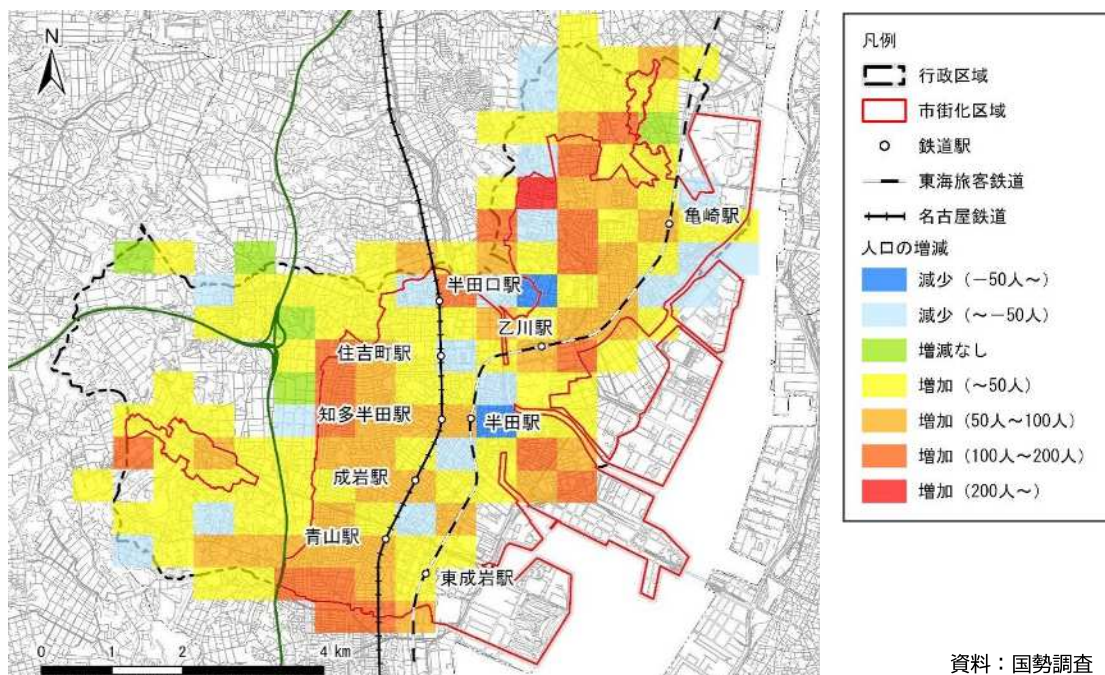
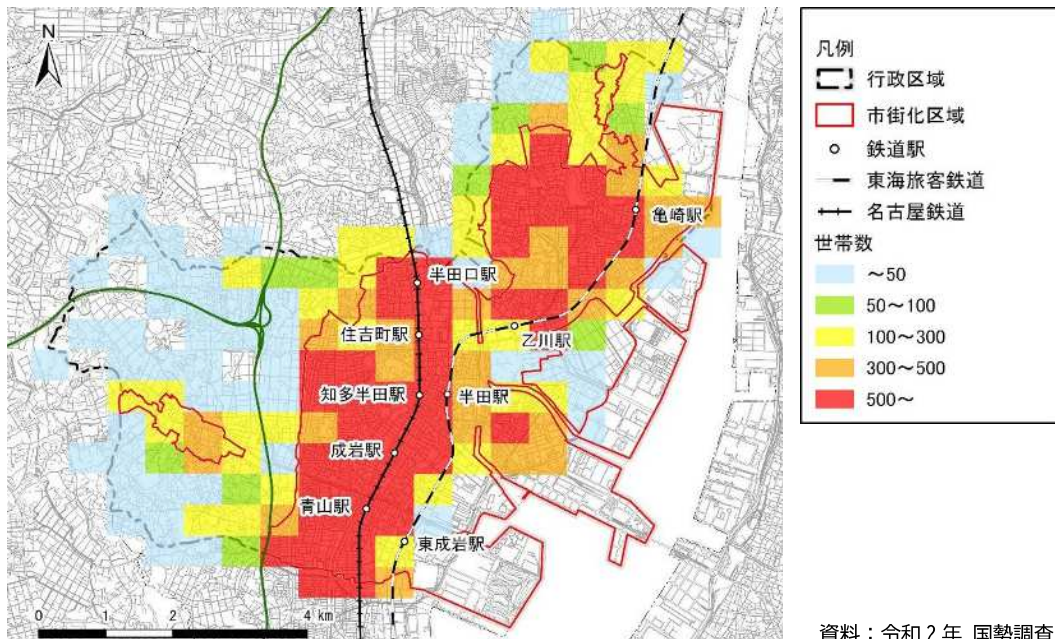


図23 老年人口（65歳以上）の増減数（令和2年（2020年）と平成22年（2010年）の差）

(3) 世帯の分布

令和2年（2020年）の総世帯数の分布を見ると、各鉄道駅周辺や土地区画整理事業区域等に面的に集積しています。

平成22年（2010年）から令和2年（2020年）までの世帯数の増減数を見ると、土地区画整理事業が行われた半田乙川中部の周辺、半田口駅周辺、成岩駅周辺等において、まとまった増加が見られる一方で、半田駅東側や亀崎駅南東側等、大きく減少している地域があります。



資料：令和2年 国勢調査

図24 総世帯数の分布（令和2年（2020年）：500mメッシュ）

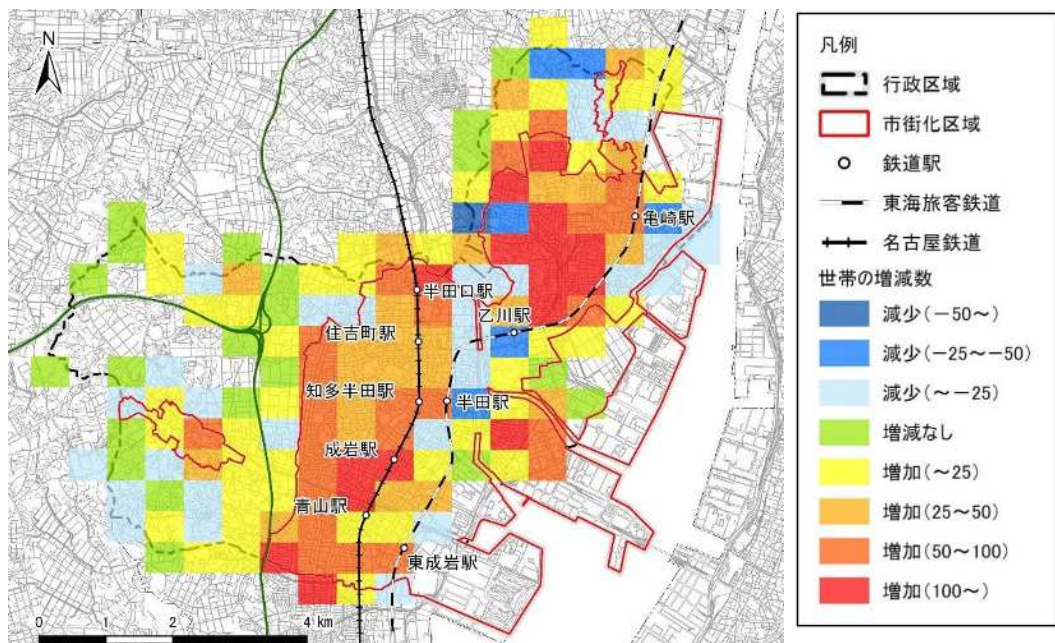


図25 総世帯数の増減数（令和2年（2020年）と平成22年（2010年）の差）

資料：国勢調査

2-3 地域経済

本市の通勤・通学流動や、工業・商業・農業・観光に関する動向を整理します。

なお、いずれも新型コロナウイルス流行期間が含まれており、今後一定期間は、地域経済への影響が懸念されます。

(1) 通勤・通学流動

半田市に関連する通勤・通学流動を見ると、約半数の人が市内で就業・通学しています。

通勤の都市間の移動は、名古屋市のほか、常滑市や武豊町への流出が多くなっています。また、武豊町や常滑市、阿久比町といった周辺都市からの流入が多くなっています。通学は、特に、名古屋市への流出が多くなっています。

本市の自市内就業・通学率は52%であり、昼夜間人口比率は100.2となっています。



図26 通勤流動(令和2年(2020年))

※500人以上の流動を表示
資料：令和2年 国勢調査

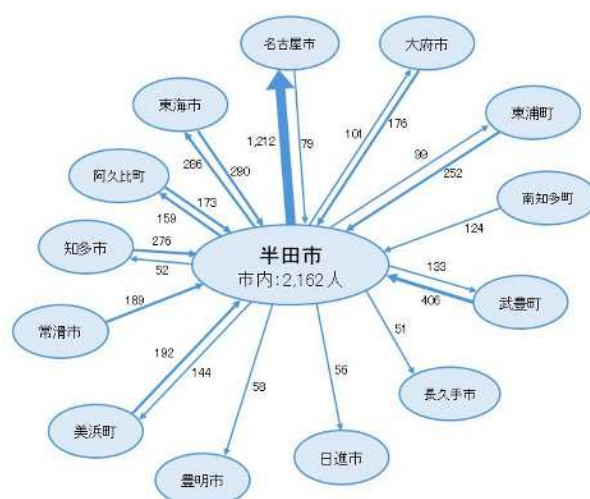


図27 通学流動(令和2年(2020年))

※50人以上の流動を表示
資料：令和2年 国勢調査

表3 半田市の通勤・通学流動

	合計	市内	流出	流入	流出－流入
通勤	57,994人	30,249人 (52.16%)	25,307人 (43.64%)	26,271人 (45.30%)	-964人 (-1.66%)
通学	4,759人	2,162人 (45.43%)	2,784人 (58.50%)	2,407人 (50.58%)	377人 (7.92%)
合計	62,753人	32,411人 (51.65%)	28,091人 (44.76%)	28,678人 (45.70%)	-587人 (-0.94%)

※カッコ内の数値は、合計に対する割合。

資料：令和2年 国勢調査

(2) 工業

本市の製造品出荷額等は、平成20年(2008年)のリーマンショック以降概ね横ばい傾向となっていました。近年は増加傾向にあります。また、事業所数は減少傾向にありましたが、近年は増加傾向にあり、従業者数についても増加傾向となっています。

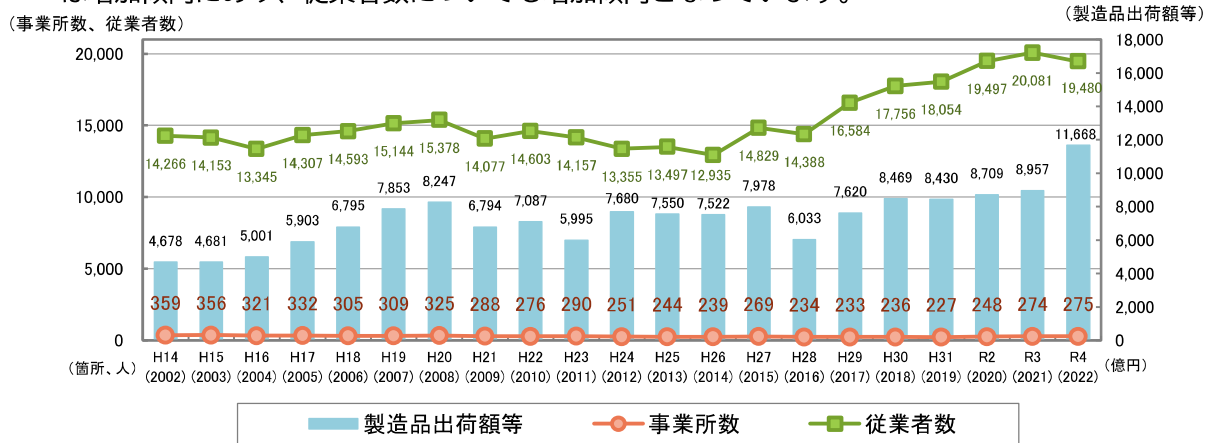


図28 半田市の工業の動向

資料：(～平成31年)工業統計調査、(平成23年・平成27年・令和2年)経済センサス活動調査(令和3年～)経済構造実態調査

(3) 商業

本市の商品販売額、商店数、従業者数は、平成20年(2008年)のリーマンショックの影響もあり、平成24年(2012年)に減少していますが、それ以降は回復傾向にありました。一方、直近の令和3年(2021年)の数値では新型コロナウイルスの流行もあり、いずれも減少しています。

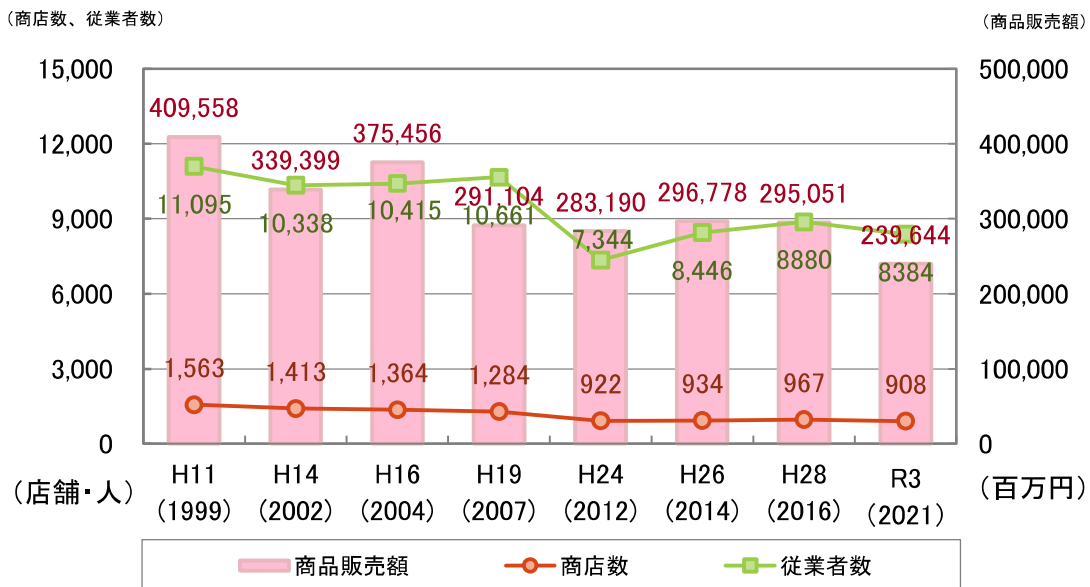
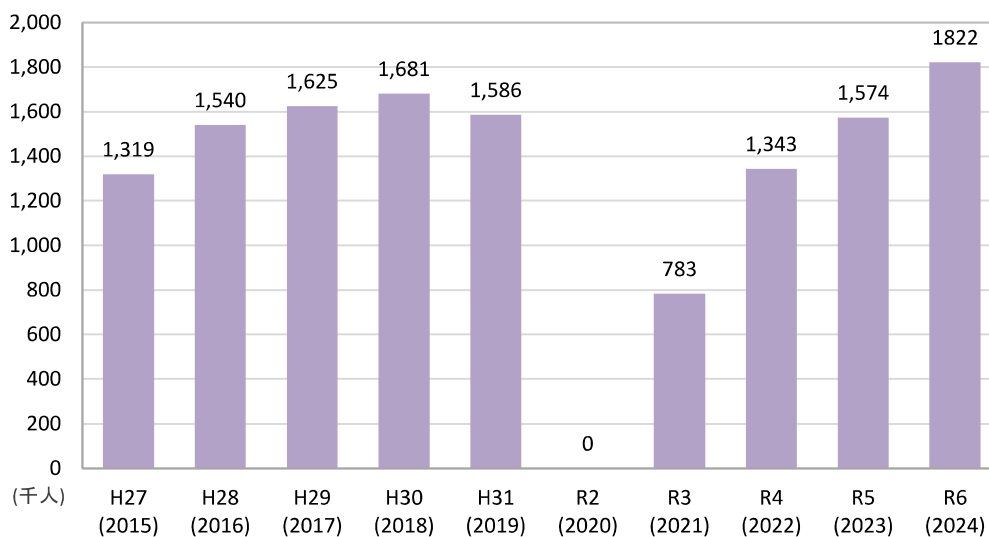


図29 半田市の商品販売の動向

資料：商業統計調査、経済センサス活動調査(平成24年、平成28年、令和3年)商業統計調査は平成26年に廃止され、経済センサス活動調査に統合されたため、平成26年以前と調査内容が異なる。

(4) 観光

本市では歴史・文化に関わる様々な観光施設やイベントがあり、これらの観光入込客数は増加しています。新型コロナウイルスの流行により、観光入込客数は大幅に減少しましたが、現在は新型コロナウイルスの流行前の水準を上回っています。



- ※主な観光施設やイベント
- ・半田赤レンガ建物
 - ・國盛 酒の文化館
 - ・MIZKAN MUSEUM
 - ・半田市立博物館
 - ・新美南吉記念館
 - ・半六庭園
 - ・半田運河HOTORIイベント
 - ・ごんの秋まつり
 - ・はんだふれあい産業まつり
 - ・春の山車まつり
 - ・いちご狩り

※令和2年度はコロナ禍による施設閉鎖等のため、未集計

図 30 観光入込客数の推移

資料：半田市資料

(5) 地価（市街化区域内地価公示）

地価公示価格は、概ねの調査地点で下落傾向にありましたが、近年上昇に転じており、特に住居系・工業系の用途地域内では、ほとんどの地点で地価が上昇しています。

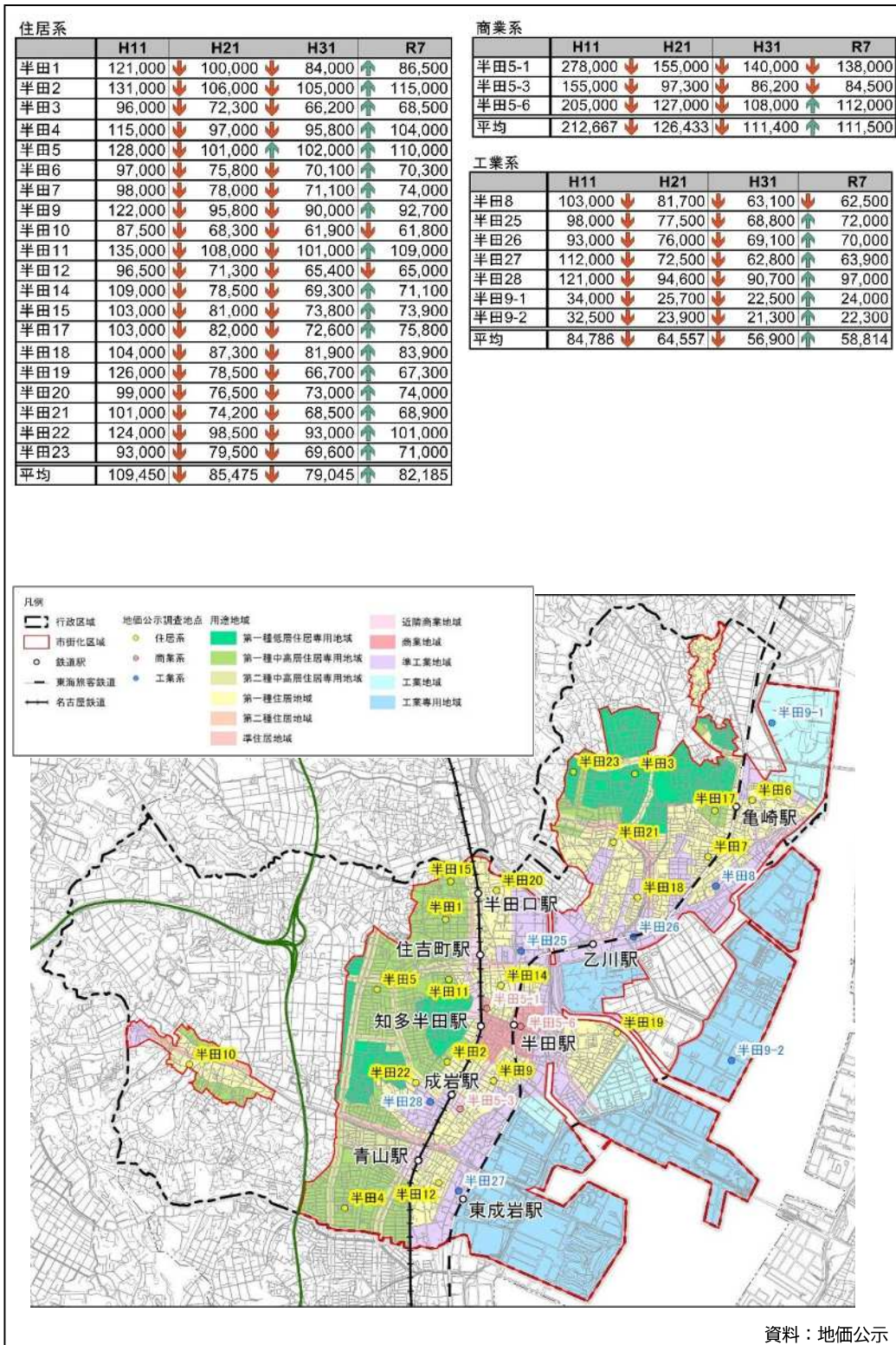


図 31 地価公示価格の推移 (円/㎡)

2-4 財政

(1) 歳入（市税）

市税総額は、概ね増加傾向です。市民税や都市計画税は概ね横ばいで推移しています。また、固定資産税は増加傾向です。

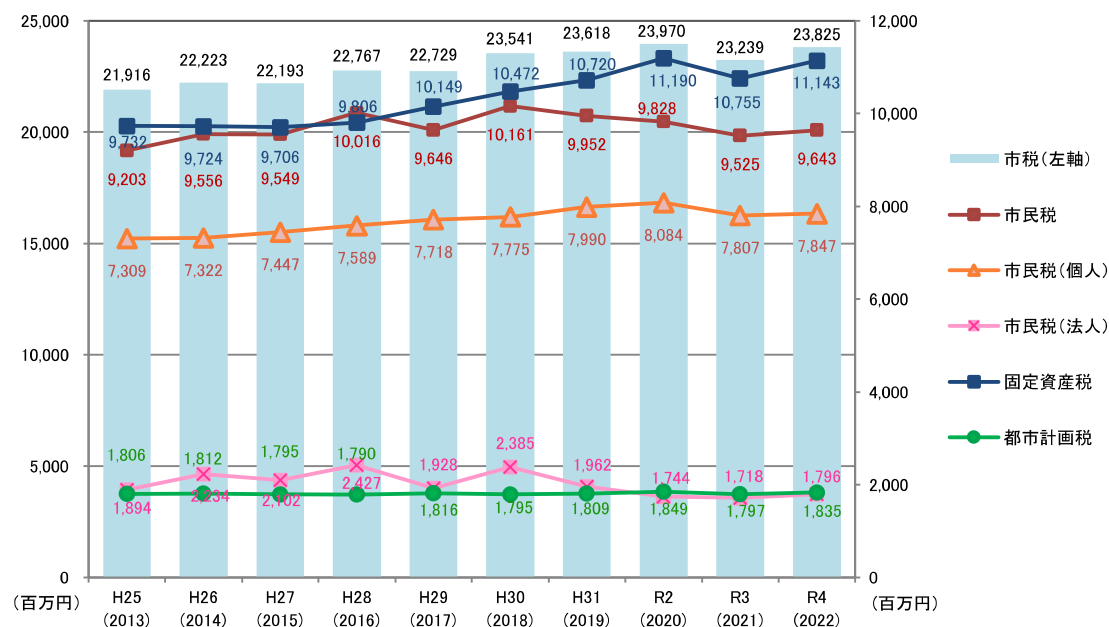


図 32 歳入（市税）の推移

資料：知多半島の統計

(2) 歳出（目的別）

目的別歳出の推移を見ると、少子高齢化が進行する中で、子育て支援や福祉に関連する民生費が増加傾向です。都市基盤等の整備や維持・更新に必要な土木費は、概ね横ばいで推移しています。

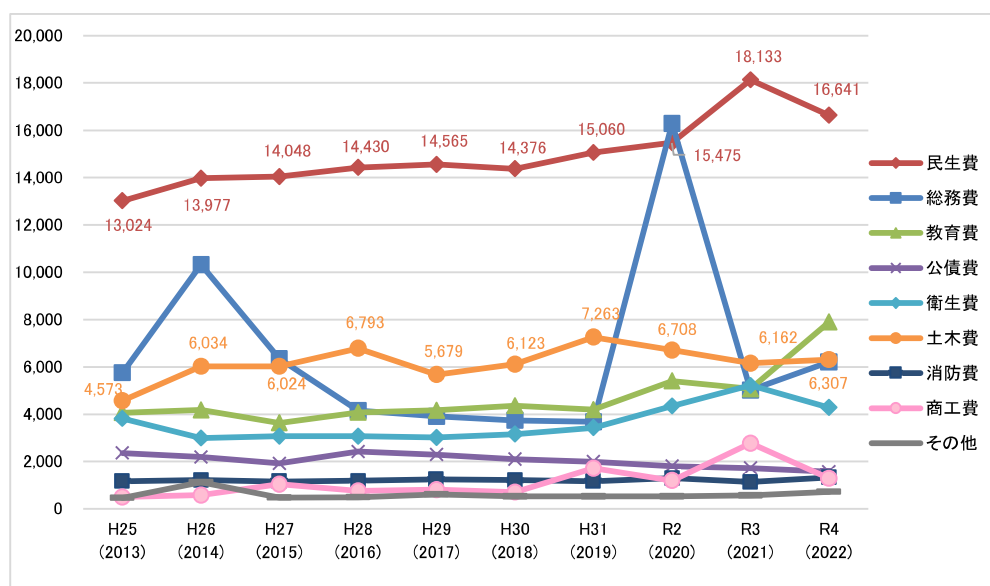


図 33 目的別歳出の推移

資料：知多半島の統計・愛知県市町村の財政状況資料集（市民税内訳）

2-5 都市機能増進施設の集積状況

ここでは、都市計画運用指針に記載されている誘導施設を踏まえ、誘導施設の検討の基本となる都市機能増進施設の集積状況を、徒歩圏内（800m）にある施設の種類の数から把握します（評価方法は次ページを参照）。

本市中心部の知多半田駅や半田駅、住吉町駅周辺において、基幹的な施設を始めとした多様な施設が集積しています。また、各地域の居住地周辺において、地域生活に必要な都市機能増進施設がバランスよく立地しています。

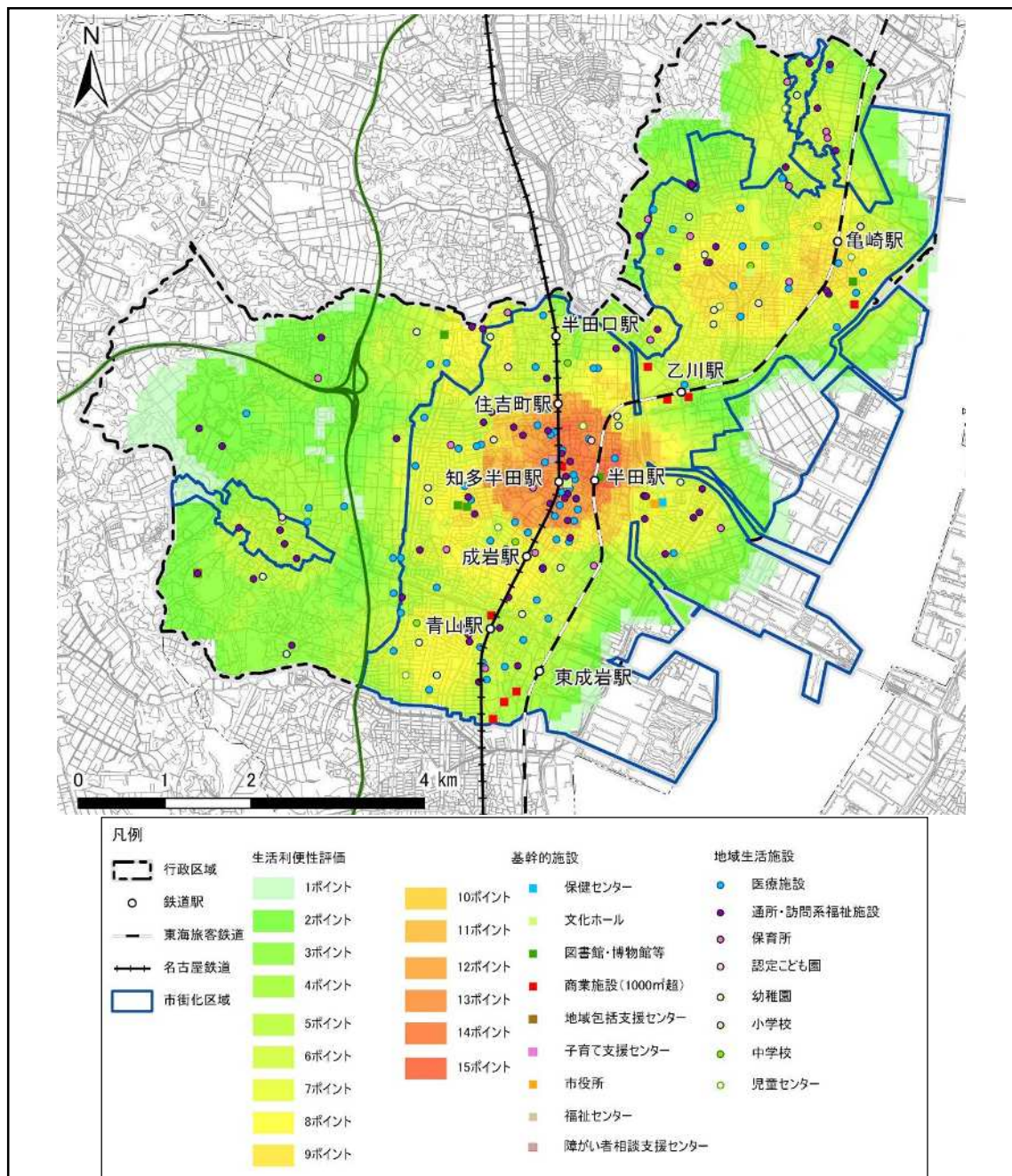
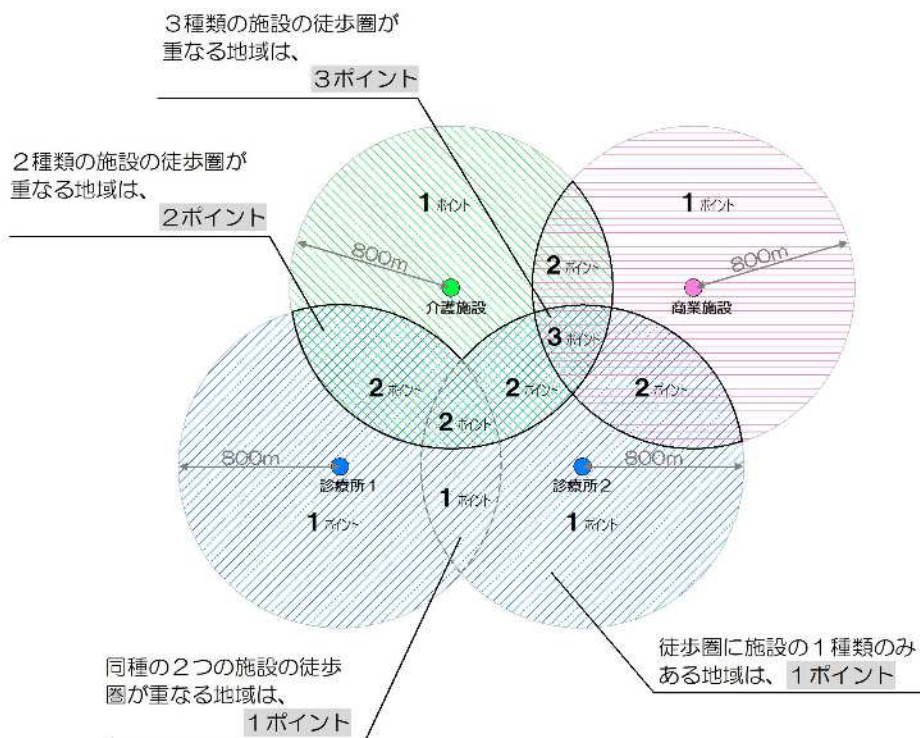


図 34 都市機能増進施設の集積状況

(生活利便性評価におけるポイント数の計上方法)

- ・徒歩圏は、「都市構造の評価に関するハンドブック（平成26年8月 国土交通省）」に基づき800mとする。（800m：徒歩で約10分の距離）
 - ・様々な分野の都市機能増進施設が立地する地域を生活利便性が高い地域と考える。
 - ・徒歩圏にある「施設（建物）」の数ではなく、徒歩圏にある「施設の種類（都市機能）」の数により評価する。
- ※診療所が2つある地域は、2つの施設があっても施設の種類（機能）は同じとし、ポイントは1とする。



2-6 土地利用・建物立地

(1) 土地利用の変遷

現在から概ね 30 年前の土地利用と比較すると、市街化区域では、土地区画整理事業等により市街化が進んでいます。市街化調整区域では、特に自動車専用道路のインターチェンジ周辺において宅地化が進んでいます。

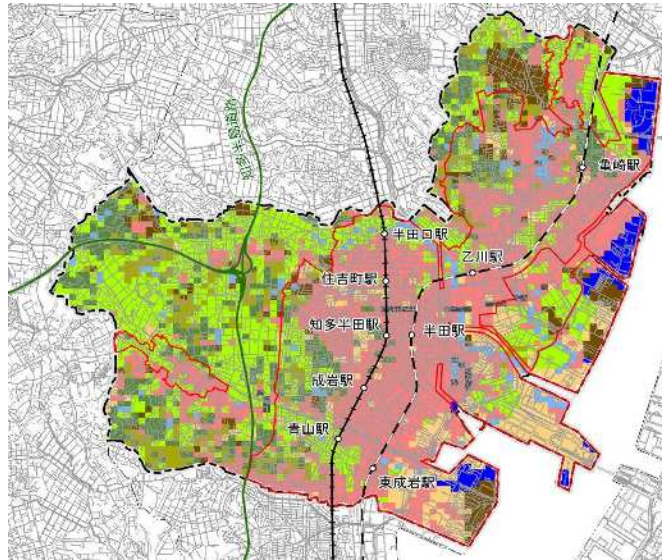
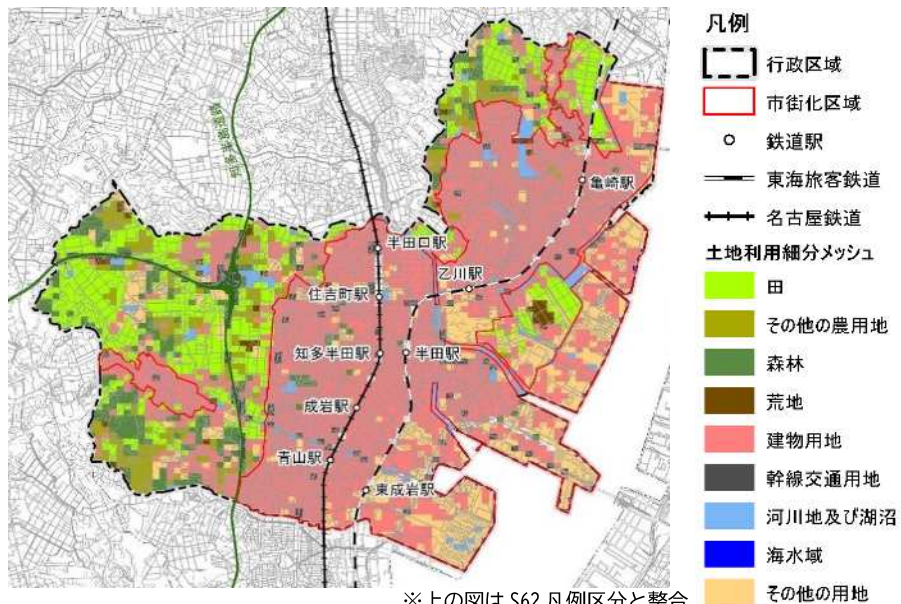


図 35 土地利用の概要 (昭和 62 年 (1987 年))



※上の図は S62 凡例区分と整合

図 36 土地利用の概要 (令和 3 年 (2021 年))

※凡例の補足
 建物用地 : 細分化メッシュ「高層建物」、「工場」、「低層建物」、「低層建物(密集地)」に該当。
 幹線交通用地 : 細分化メッシュ「道路」、「鉄道」に該当。
 その他の用地 : 細分化メッシュ「公共施設等用地」、「空地」、「ゴルフ場」に該当。

資料：国土数値情報

(2) 空き家の状況

本市の空き家率は、令和5年（2023年）時点で12.3%であり、全国の空き家率13.8%よりも低い一方、愛知県の空き家率11.8%よりも高い水準となっています。また、愛知県内の市町村のうち17番目に高い割合となっています。

令和6年（2024年）に本市が行った空家等実態調査の結果、本市の空家等と推定した建物のか所数は2,245か所となっており、昭和56年5月31日以前に建築されたものは1,579か所となっています。

表4 空家等の建築年について

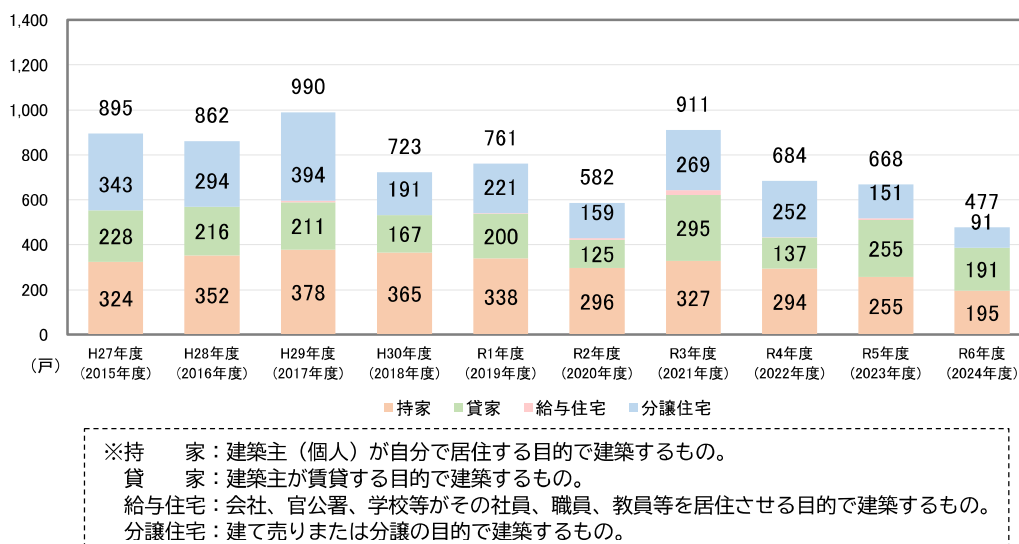
建築年月日	か所数
昭和56年5月31日以前	1,579か所
昭和56年6月1日以後	647か所
建築年月日不明	19か所
計	2,245か所

資料：令和5年住宅・土地統計調査，半田市空家等対策計画

(3) 住宅の着工件数

10年間の住宅の着工件数は、平成29年度（2017年度）の990件をピークとして令和6年度（2024年度）には477件まで減少しました。令和3年度（2021年度）は911件となっていますが、全体としては減少傾向にあります。

利用関係別に見ると、平成29年度（2017年度）ごろまでは分譲住宅の件数が多い状況でしたが、近年は持家と貸家が多い状況です。



資料：建築着工統計調査

図37 住宅の着工件数の推移

2-7 公共交通

(1) 整備状況

本市には、名鉄河和線の駅が5駅、JR武豊線の駅が4駅、合計9駅あります。

名鉄河和線の運行本数は、特急が停車する知多半田駅と青山駅が多く、知多半田駅から名鉄名古屋駅へは約30分で移動できます。

JR武豊線は、通勤・通学時間帯には快速列車が運行され、半田駅から名古屋駅まで約45分で移動できます。

バス路線については、日常生活における市民の移動ニーズに対応するため、平成30年(2018年)10月1日に市内のバスネットワークを大幅に再編しています。これまでの基幹路線バス2路線と、これを補完する新規の地区路線バス「ごんくる」3路線に加えて、令和2年(2020年)10月に「ごん吉くんバス」が2路線整備されました。令和3年9月からは新たに2路線が整備され、令和7年4月からは、知多半島総合医療センターへのアクセス向上のため、医療センターバスの運行が開始されました。

これらの公共交通のカバー圏域には、市民の84%が居住しています。

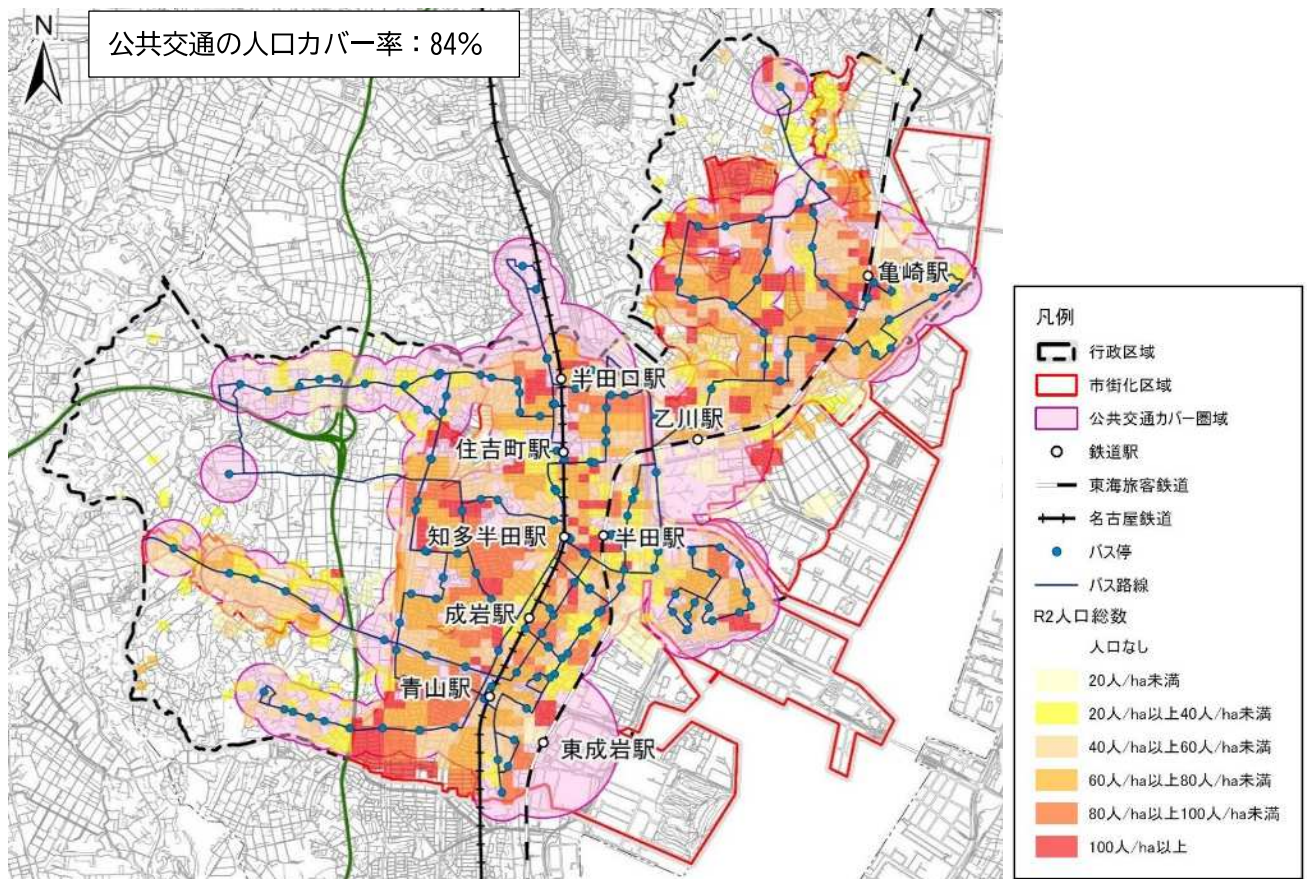


図38 人口分布と公共交通のカバー圏域

※公共交通カバー圏域：駅から半径800mまたはバス停から半径300mの範囲(令和7年4月時点)

※公共交通の人口カバー率：市の人口に占める公共交通のカバー圏域に含まれる人口の割合。カバー圏域内に100mメッシュの中心が含まれるメッシュ人口を加算している。

資料：【人口メッシュ】令和2年国勢調査

【バス路線・バス停】半田市地区路線バス ごんくる 路線図&時刻表(令和7年4月時点)

半田市地区路線バス ごん吉くん岩滑小線 路線図&時刻表(令和7年4月時点)

第2章 現況分析

(2) 鉄道駅の乗降客数の推移

鉄道駅の乗降客数は新型コロナウイルス流行の影響により、令和2年（2020年）に大きく減少しましたが、令和3年（2021年）以降は回復傾向が続いており、令和5年（2023年）末で約38,000人/日となっています。

駅別に見ると、知多半田駅の乗降客数が約10,000人/日と最も多く、次いで青山駅が約7,000人/日と多くなっています。

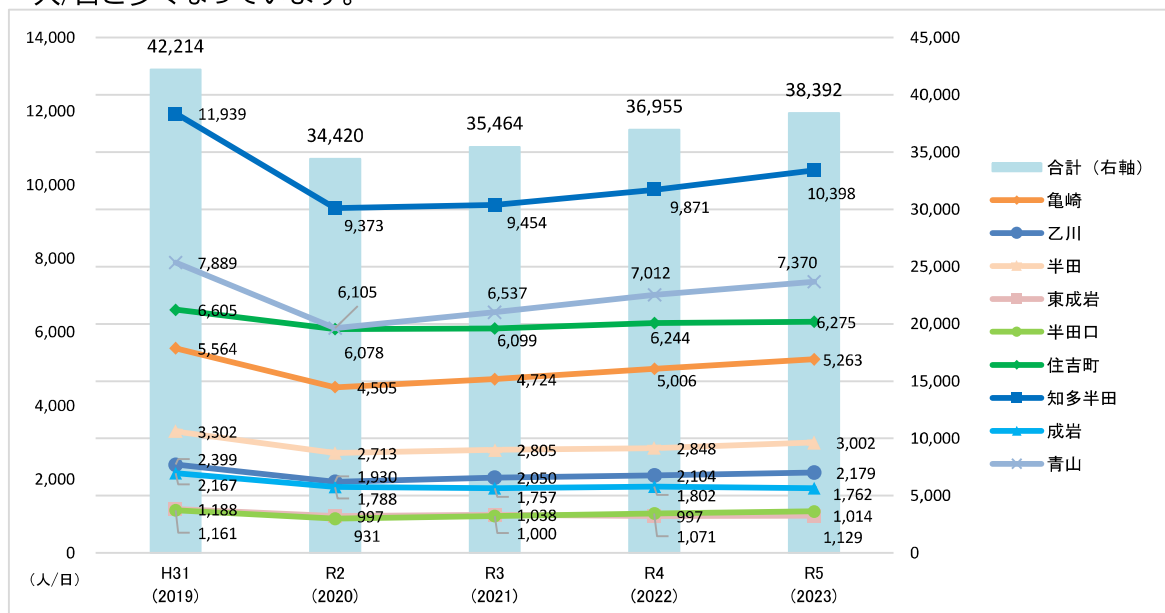


図 39 市内鉄道駅の乗降客数の推移

資料：国土数値情報

2-8 都市構造の評価

ここでは、「都市構造の評価に関するハンドブック(平成26年8月 国土交通省)」を踏まえ、本市の都市構造について、類似都市との比較評価を行います。

(1) 評価項目

データの整備状況等を踏まえ、「①生活利便性」と、「②健康・福祉」の評価のうち人口カバー率や人口密度に関連する指標については、本市の現在の施設分布や令和2年国勢調査の人口メッシュに基づき評価を行います。その他の指標については、国土交通省のデータを利用します。

表5 他都市と比較評価を行う指標一覧

都市構造評価指標名		データ名	単位	利用データ	
				国提供データ	算定データ
① 生活 利便性	◎居住機能の適切な誘導	日常生活サービスの徒歩圏充足率	日常生活サービス徒歩圏	%	●
		生活サービス施設の徒歩圏人口カバー率	医療施設徒歩圏(800m)	%	●
			福祉施設徒歩圏(800m)	%	●
			商業施設徒歩圏(800m)	%	●
		基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率	駅またはバス停留所徒歩圏(800m, 300m)	%	●
	◎都市機能の適正配置	生活サービス施設の利用圏平均人口密度	医療施設徒歩圏(800m)	人/ha	●
			福祉施設徒歩圏(800m)	人/ha	●
			商業施設徒歩圏(800m)	人/ha	●
	◎公共交通の利用促進	通勤通学時の公共交通分担率	鉄道およびバスの分担率の合計	%	●
		公共交通沿線地域の人口密度	駅およびバス停徒歩圏(800m, 300m)	人/ha	●
② 健康・ 福祉	◎都市生活の利便性向上	高齢者徒歩圏に医療機関がある住宅の割合	高齢者徒歩圏(500m)に医療機関がある住宅の割合	%	●
		福祉施設の高齢人口カバー率	福祉施設(1km)65歳以上人口カバー率	%	●
		保育所の徒歩圏0~4歳人口カバー率	保育所徒歩圏(800m)0~4歳人口カバー率	%	●
	◎歩きやすい環境の形成	歩道設置率	歩道設置率	%	●
		高齢者徒歩圏に公園がある住宅の割合	高齢者徒歩圏(500m)に公園がある住宅の割合	%	●
③ 安全・安心	◎市街地の安全性の確保	交通事故死者数	市民一人あたりの交通事故死者数	人	●
	◎市街地荒廃化の抑制	空き家率	空き家率	%	●
④ 地域経済	◎サービス産業の活性化	従業者一人当たり第三次産業売上高	売上高/従業員数	百万円/人	●
⑤ 行政運営	◎都市経営の効率化	財政力指数	財政力指数(市町村財政)	—	●
	◎安定的な税収の確保	市民一人当たり税収額(市町村民税+固定資産税)	市民一人当たり平均税収額	千円	●
⑥ エネルギー/ 低炭素	◎運輸部門の省エネ・低炭素化	市民一人当たりの自動車CO2排出量	市民一人当たりの自動車CO2排出量	t-CO2/年	●

※国土交通省「レーダーチャート自動作成ツール (https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/toshi_tosiko_tk_000036.html)」を用いて作成

(2) 現況の都市構造の評価方法

本市を含め、周辺都市の住民が居住地を決める際に競合すると考えられる都市との比較評価を行います。具体的には、本市から名古屋市への通勤・通学が多く、名古屋駅まで約30分で移動できることを踏まえ、名古屋駅から約30分圏内にあつて本市と同等の人口規模を有する県内の都市や、本市周辺にあつて同等の人口規模を有する都市との比較を行います。

評価項目別に、本市の評価値の偏差値を算定することで、評価を行います。

表6 比較対象都市一覧

対象市	半田市	安城市	西尾市	刈谷市	稲沢市	瀬戸市	東海市
R2人口 (人)	117,884	187,990	169,046	153,834	134,751	127,792	113,787

(3) 現況の都市構造の評価結果

生活利便性や健康・福祉の評価が概ね高くなっている一方で、地域経済や行政運営に係る評価が低くなっています。

生活利便性や健康・福祉のうち、医療施設・福祉施設・保育施設・商業施設の立地に関する評価が高くなっています。また、公共交通沿線地域の人口密度が高くなっていますが、基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率や通勤通学時の公共交通分担率等が低く、公共交通が利用されていない状況となっています。安全・安心のうち、空き家率が高くなっています。

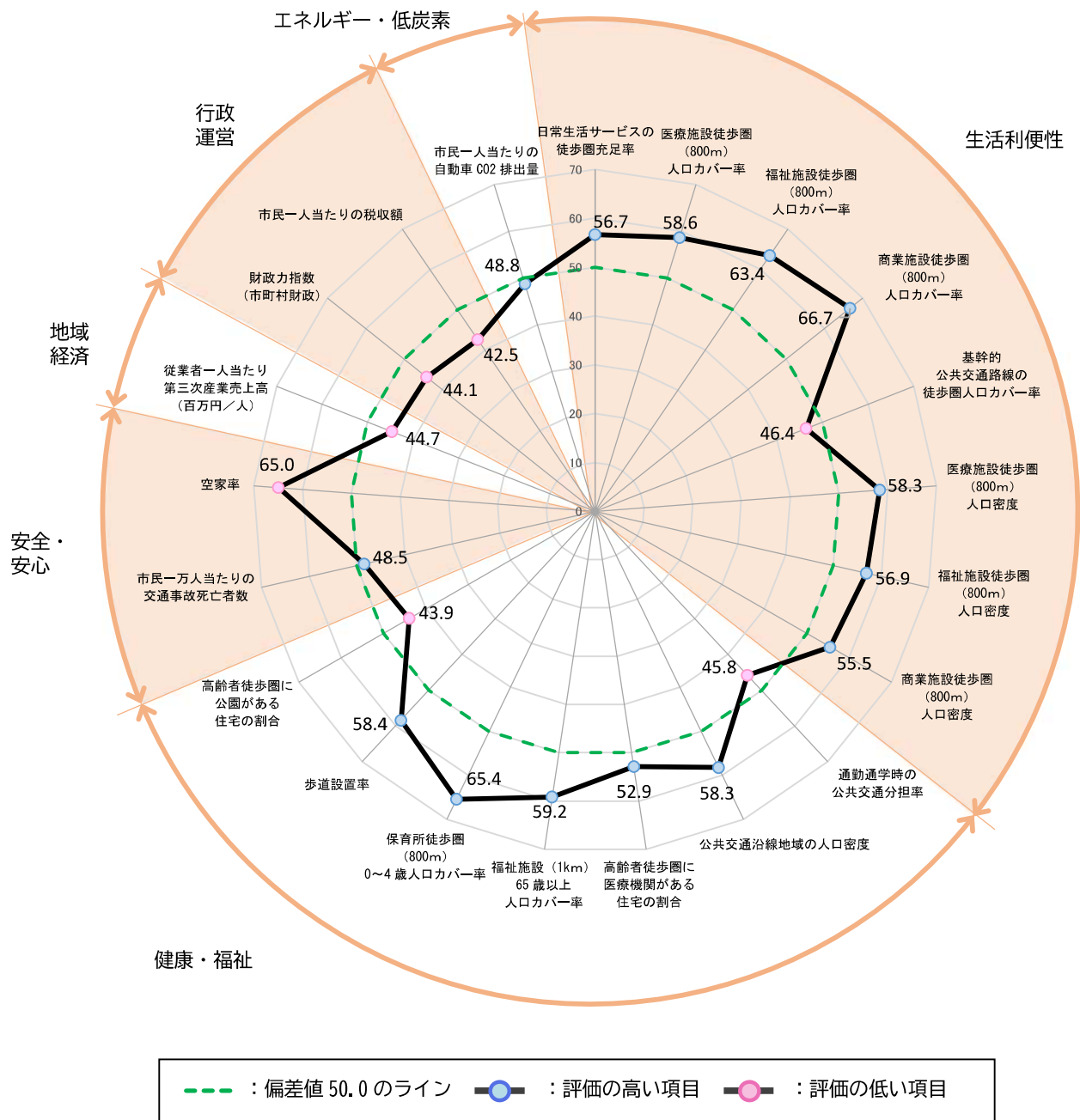


図 40 半田市の都市構造の評価結果 (評価項目別の偏差値)

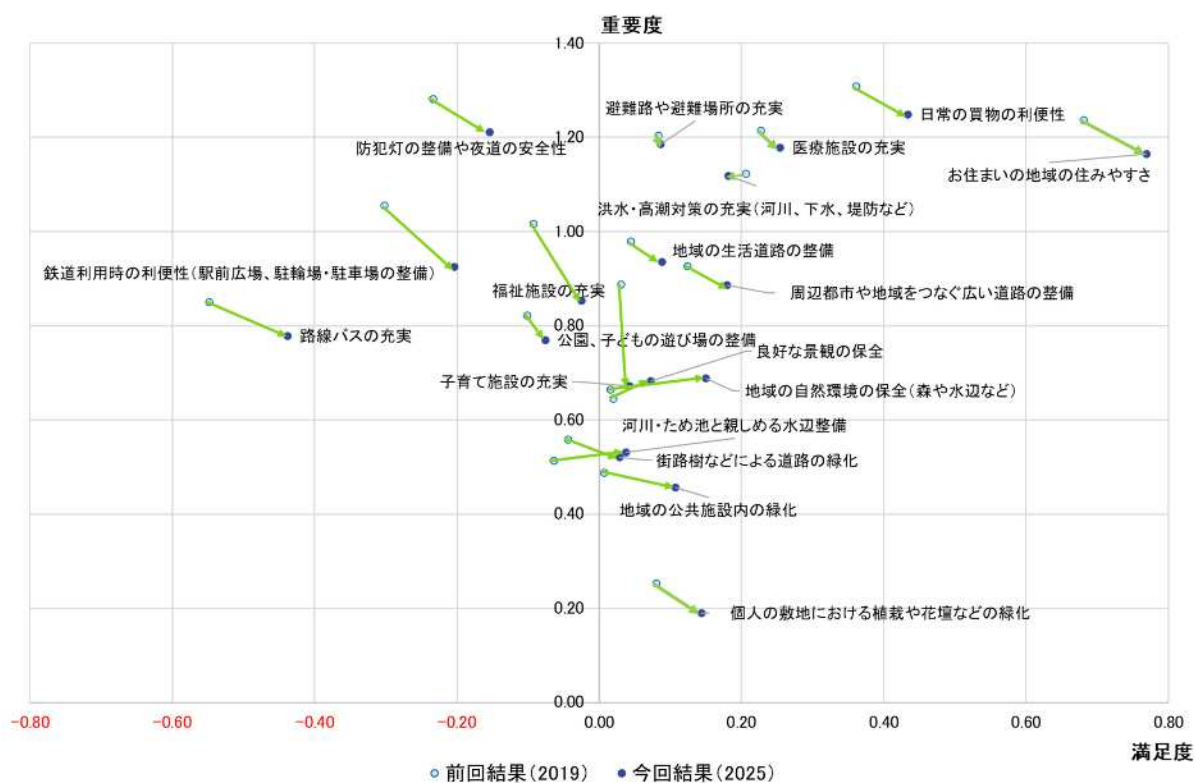
※「市民一人当たりの交通事故死亡者数」「空家率」「市民一人当たりの自動車 CO2 排出量」は、数値が高いほど評価が低くなる。

2-9 市民アンケート調査

令和7年（2025年）7月に、市民の生活環境の現状や、今後のまちづくりについての意向を把握するため、18歳以上の市民の中から無作為に3,500人を抽出し、郵送配布・郵送、WEB回収によりアンケート調査を実施した結果、1,126人（回収率32%）からの回答がありました。

お住まいの地域の満足度と今後の重要度

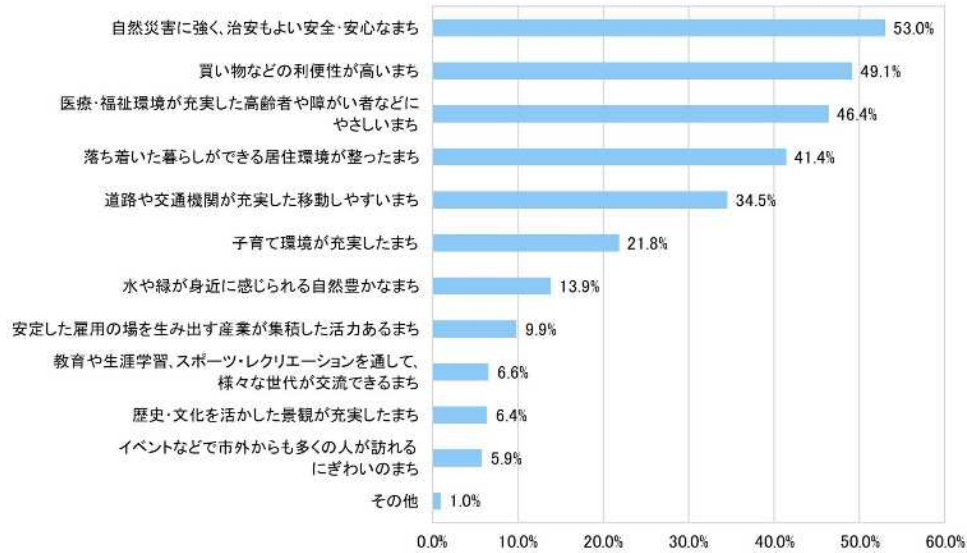
- ・「お住まいの地域の住みやすさ」は満足度や重要度が高くなっています。住みやすさの要素となる「日常の買物の利便性」や「医療施設の充実」も満足度や重要度がともに高くなっています。
- ・「避難路や避難場所の充実」「洪水・高潮対策の充実」「防犯灯の整備や夜道の安全性」といった、生活環境の安全・安心に対する重要度が高い中、「防犯灯の整備や夜道の安全性」の満足度が低くなっています。
- ・「鉄道利用時の利便性」「路線バスの充実」といった公共交通関連の項目や、「公園、子どもの遊び場の整備」といった項目の満足度が低くなっています。



※上表は満足度・重要度を点数化した平均値を示す。
 満足度) 満足：2点、まあ満足：1点、普通：0点、やや不満：-1点、不満：-2点
 重要度) 重要：2点、まあ重要：1点、普通：0点、あまり重要でない：-1点、重要でない：-2点

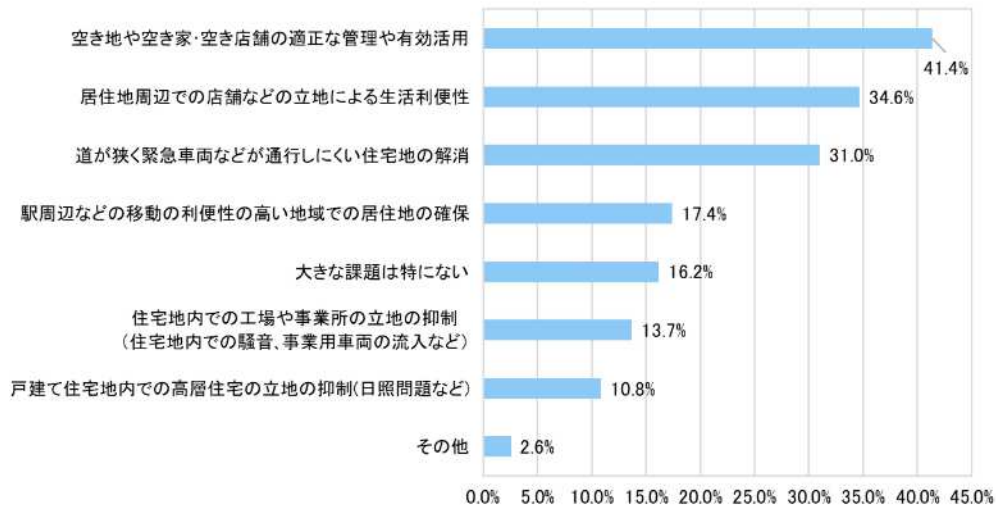
お住まいの地域のまちづくりの方向性

- ・「自然災害に強く、治安もよい安全・安心なまち」「買い物などの利便性が高いまち」「医療・福祉環境が充実した高齢者や障がい者などにやさしいまち」が多くなっています。



お住まいの地域の土地利用の方向性

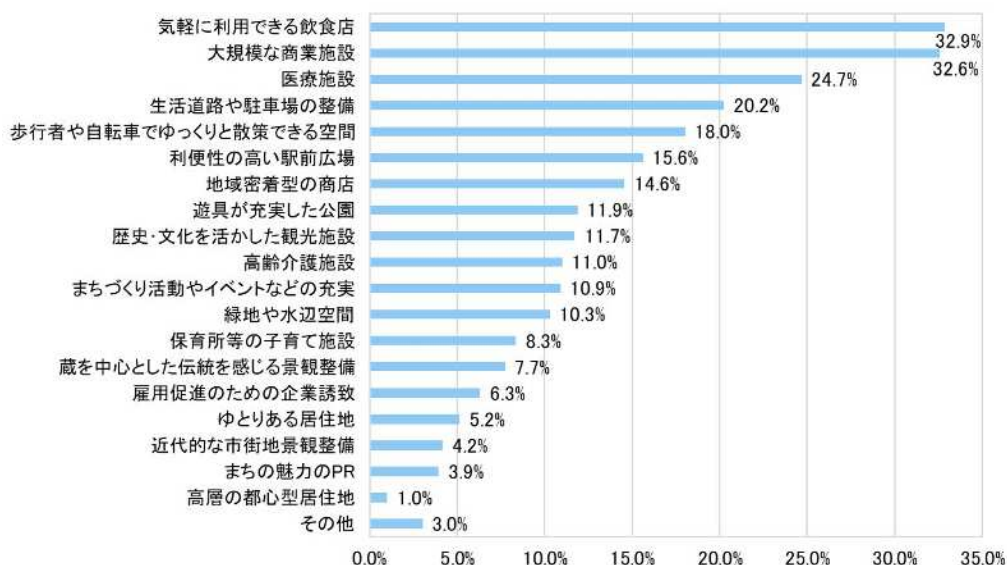
- ・「空き地や空き家・空き店舗の適正な管理や有効活用」が最も多く、次いで、「居住地周辺での店舗などの立地による生活利便性」「道が狭く緊急車両などが通行しにくい住宅地の解消」が多くなっています。



第2章 現況分析

中心市街地において「快適に生活でき、多くの人が出かけたい」と思うまちづくりを推進するために重要な取組

- ・「気軽に利用できる飲食店」「大規模な商業施設」「医療施設」に対するニーズが高くなっています。



調査結果の概要

○住みやすく快適な生活環境の維持・向上が求められます。

- ・地域内での日常の買物の場や医療施設の確保
- ・建物のデザイン等の調和がとれた景観形成、緑化の推進
- ・空き地や空き家・空き店舗の適正な管理や有効活用

○安心・安全の確保が求められます。

- ・建物の耐震化などの自然災害への対策や市民の防災活動等への参画促進
- ・防犯対策の推進
- ・空き地や空き家・空き店舗の適正な管理や有効活用、生活の安全確保

○公共交通の利便性の向上や道路交通の円滑化が求められます。

- ・高齢者の移動手手段の確保や公共交通の満足度の向上
- ・周辺都市や地域をつなぐ幹線道路の円滑化

○半田市特有の歴史文化や豊かな自然環境の継承・活用が求められます。

- ・山車、蔵、新美南吉、赤レンガに代表される歴史、文化的資源の保存・継承、活用
- ・自然環境の保全

○中心市街地の活性化が求められます。

- ・中心市街地における商業施設や医療施設の立地